

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人 静岡理科大学	昭和27年3月31日	杉浦 哲	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
服飾・家政	服飾・家政 専門課程	ファッションビジネス科	平成10年文部省告示 第179号																												
学科の目的	本科は、ファッションのトレンド分析や商品企画、ショップの企画運営や販売促進等ファッション業界全般の知識や手法を習得する。さらにショップ実習やコーディネート実習を通してショップ運営の一連の流れを習得し、業界での即戦力となる人材を育成する。																														
認定年月日	平成28年2月29日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	1980時間	330時間	1110時間	540時間	0時間	0時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
40人	67人	0人	4人	22人	26人																										
学期制度	■前期: 4月1日～9月15日 ■後期: 9月20日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																											
長期休み	■学年始: 4月1日～4月11日 ■夏季: 8月2日～8月27日 ■冬季: 12月23日～1月8日 ■学年末: 2月29日～3月31日		卒業・進級 条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。		課外活動	■課外活動の種類 校内球技大会、国内研修旅行、海外研修旅行(令和3年度は中止) ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動: 無																											
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) ファッションアドバイザー、アパレル店舗マネージャー、店舗スタッフ、バイヤー、ファッションコーディネーター等 ■就職指導内容 ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、インターシップのフォロー ■卒業生数: 19人 ■就職希望者数: 17人 ■就職者数: 17人 ■就職率: 100.0% ■卒業者に占める就職者の割合: 89.5% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和4年度卒業生に関する 令和5年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業年次生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>31人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラー検定上級</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラー検定中級</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>29人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>商業ラッピング検定3級</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 PAL FOUNDATION CUP 2022 全国大会出場 マークイズ静岡接客ロープレコンテスト エキシビジョン参加2名				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	AFT色彩検定3級	③	31人	25人	パーソナルカラー検定上級	③	19人	17人	パーソナルカラー検定中級	③	30人	27人	ファッションビジネス能力検定3級	③	29人	24人	商業ラッピング検定3級	③	5人	4人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
AFT色彩検定3級	③	31人	25人																												
パーソナルカラー検定上級	③	19人	17人																												
パーソナルカラー検定中級	③	30人	27人																												
ファッションビジネス能力検定3級	③	29人	24人																												
商業ラッピング検定3級	③	5人	4人																												
中途退学 の現状	■中途退学者 5名 令和4年4月1日時点において、在学者55名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者50名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学的主要原因 進路変更、精神的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・スクールカウンセラーによる個別相談に応じている。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。		■中退率 9.1%																												
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度 特待生: 授業料全額免除 準特待生A: 授業料の50%免除 準特待生B: 授業料の25%免除 準特待生C: 授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																														
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科の ホームページ URL	http://www.sdc.ac.jp																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ファッション流通業界に必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 壽康	ショッピングセンター協会中部支部副支部長 静鉄プロパティマネジメント 取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	①
米本 佳史	株式会社 大丸松坂屋百貨店	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
岩崎 仁志	株式会社ヒューマンフォーラム 代表取締役 社長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
村松 貴	株式会社 京都むらまつ 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
中井 和人	SPINNS店舗開発、FC事業部長SPINNS高等学院 校長	令和4年10月1日～ 令和5年3月31日	③
川南 沙耶香	SPINNS高等学院 教務主任	令和4年10月1日～ 令和5年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
菅 麻紀	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
金田 真哉	静岡デザイン専門学校 ファッションビジネス科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
朝比奈 将人	静岡デザイン専門学校 ブライダル・ビューティー科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
カルフォ 香奈	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
岩本 ひとみ	静岡デザイン専門学校 ブライダル・ビューティー科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
森川 真琴	静岡デザイン専門学校 ブライダル・ビューティー科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月3日(水) 10:00～12:00

第2回 令和5年3月27日(月) 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ファッションアドバイザーがどのような職種かを体験的な授業を通して指導してもらえる企業を選定している。また、各自が将来展望を開ききっかけとなるような指導をお願いしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき担当教員が事前指導を行い、企業講師に引き継ぐ。終了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ファッションデザイン画Ⅱ	ドレスファッションにおける意義とルールを理解し作品並びに販売に繋げる。	株式会社 シバタ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「トップアナリストがみる小売り、2023年の展望」(INFASパブリケーションズ)

期間:令和5年5月28日 対象:ファッション業界関係者

内容:2023年を起点に中長期で見る小売業の論点

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間:令和5年1月5日(水) 対象:学校所属全教員

内容:同一分野の就職指導意識合わせ・事例紹介・最新トレンドなどのディスカッション

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ファッション・トレンド速報セミナー」(連携企業等:株式会社プロジェクト)

期間:未定 対象:ファッション業界従事者、クリエイター、デザイナー

内容:ファッション業界の今と将来のトレンド情報を収集し、今後のファッション業界に必要なスキルを得る

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間:未定 対象:学校所属全教員

内容:学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	卒業生
浦田 友美	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	近隣住民代表
杉原 徹	T Design 代表	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
品川 誠二郎	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人材開発部 マネージャー	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
<b>事務局</b>			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>  
公表時期: 令和5年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL : <http://www.sdc.ac.jp>

授業科目等の概要

(服飾・家政 専門課程 ファッションビジネス科) 令和5年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2			○	○	△	○	
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2			○	○	△	○	
○			情報リテラシー	自分のパソコンに必要となるアプリケーションをインストールし、情報機器を連携させて活用することができるようになる。	1・前	30	1	○		○	○			○
○			ファッションビジネス論	単に衣服を生産し販売するというだけでなく、環境問題もふまえた人々のあり方を考え、服や着こなしに対する消費者のニーズを察知し、効果的な方法で消費者に提案・購入・満足してもらうためのビジネスである事を理解する。	1・通	30	1	○			○		○	
○			モード史	その時々々の社会環境や生活者の思いが表現される『服』というツール。歴史を紐解きながら、過去を知り、先を予測する。スタイリング提案に活かす。	1・通	30	1	○			○			○
○			ファッションブランド研究	ビジネスを意識したブランド企画を行いテーマを練って独自の発想力を養う。	2・通	30	1			○	○			○
○			マーケティングリサーチ	・商品やサービスの目的を理解しマーケティング・提供価値を構築する考え方を養う。 ・取り巻く環境、市場（企業）の動き、生活者の意識の変化からニーズ・課題に気づく力を養う。	1・前	30	1			○	○	△		○
○			ECビジネスⅠ	現状のECビジネスの現状を学ぶ。実習にて、自分が普段使ってる「通販」の詳細を知る。基礎、知識を活かして実践する。	1・後	30	1			○	○			○
○			ECビジネスⅡ	ECビジネスの知識を「実習店舗」に活かしECショップの企画立案から開設、収支報告まで行う。	2・後	30	1			○	○			○
○			デジタルマーケティングⅠ	デジタルメディアを理解し、セルフプロモーション力を習得する。	1・通	30	1			○	○	△		○
○			デジタルマーケティングⅡ	ファッション業界でのデジタルマーケティング活用事例を理解し、就職先の業務に活かせる。動画を活用した販売促進を行うことができる。	2・前	30	1			○	○	△		○
○			デザインアプリケーションⅠ	販促物を作る上での、デザインアプリillustration、Photoshopの基礎を理解し使えるようになる。	1・通	60	2			○	○			○
○			デザインアプリケーションⅡ	デザインアプリillustration、Photoshopの基礎を、順を追って説明、実習の反復。1年次で習得した知識を「実習店舗」で活かし実践する。	2・通	30	1			○	○			○
○			マーチャンダイジング	アパレルショップのMD企画、販売、計数管理までの一連の流れをマーケティング流れの中ですすめていく。単に売上や利益を求めるだけでなく、利益をどのように社会に還元していくかという観点でMD企画をすすめる。	1・後	30	1			○	○			○
○			VMD	店舗、売り場づくりの基本である【商品陳列】から【演出】についての一般的な知識と技術の習得。ブランドコンセプトや商品特性に基づく演出や陳列を学び、VMDを活かした店舗設計やゾーニングができる。	1・後	30	1			○	○			○











○	チャレンジプログラムⅤ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○		○	○
合計			105科目		1980単位時間(66単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目の成績評価において不可(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 静岡理科大学	昭和27年3月31日	杉浦 哲	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
服飾・家政	服飾・家政 専門課程	ファッションデザイン科	平成12年文部省 告示第15号																								
学科の目的	本科は、ファッション業界での活躍を目指した総合的な学習を行う。衣服作りの基本を始めとして、オリジナルブランドを立ち上げる経験を通じて企画の立て方、衣服のデザイン、パターン作成、実際の衣服製作、店頭での販売など、実務能力と技術・提案力を兼ね備えた人材の育成を目的とする。また、時代に即応したビジネスセンスも学び、業界のスペシャリストとして幅広く活躍できる適応力も身につける。																										
認定年月日	平成29年2月28日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	昼間	2970時間	480時間	510時間	1980時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
60人	53人	0人	6人	22人	28人																						
学期制度	■前期: 4月1日～9月15日 ■後期: 9月20日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																							
長期休み	■学年始: 4月1日～4月11日 ■夏季: 8月2日～8月27日 ■冬季: 12月23日～1月8日 ■学年末: 2月29日～3月31日		卒業・進級 条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。		課外活動	■課外活動の種類 国内研修旅行、海外研修旅行(令和4年度は中止) 校内球技大会、ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動: 無																							
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) ハタンナー、アパレルプランナー、ファッションリフォーマー、衣装デザイナー、 ファッションアドバイザー、ドレスコーディネーター、服飾縫製、裁断士等 ■就職指導内容 ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、インターシップのフォロー ■卒業生数 20 人 ■就職希望者数 20 人 ■就職者数 19 人 ■就職率 : 95 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 95.0 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和4年度卒業生に関する 令和5年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業年次生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>パターンメイキング検定3級</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>パターンメイキング検定2級</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>洋裁技術検定中級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ・第60回技能五輪全国大会 洋裁職種 静岡県代表として出場 ・第96回装苑賞 ノミネート				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	AFT色彩検定3級	③	10人	8人	パターンメイキング検定3級	③	19人	19人	パターンメイキング検定2級	③	17人	10人	洋裁技術検定中級	③	2人	2人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
AFT色彩検定3級	③	10人	8人																								
パターンメイキング検定3級	③	19人	19人																								
パターンメイキング検定2級	③	17人	10人																								
洋裁技術検定中級	③	2人	2人																								
中途退学 の現状	■中途退学者 5名 令和4年4月1日時点において、在学者54名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者49名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学業不振、体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・スクールカウンセラーによる個別相談に応じている。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。		■中退率 9.3%																								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度 特待生: 授業料全額免除 準特待生A: 授業料の50%免除 準特待生B: 授業料の25%免除 準特待生C: 授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	http://www.sdc.ac.jp																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換などを行い、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設け、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。また、広く、ファッション・アパレル業界の動向や必要とする素養等を伺い、本校のカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 壽康	ショッピングセンター協会中部支部副支部長 静鉄プロパティマネジメント 取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	①
米本 佳史	株式会社 大丸松坂屋百貨店	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
岩崎 仁志	株式会社ヒューマンフォーラム 代表取締役 社長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
村松 貴	株式会社 京都むらまつ 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
中井 和人	SPINNS店舗開発、FC事業部長SPINNS高等学院 校長	令和4年10月1日～ 令和5年3月31日	③
川南 沙耶香	SPINNS高等学院 教務主任	令和4年10月1日～ 令和5年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
菅 麻紀	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
金田 真哉	静岡デザイン専門学校 ファッションビジネス科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
朝比奈 将人	静岡デザイン専門学校 ブライダル・ビューティー科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
カルフォ 香奈	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
岩本 ひとみ	静岡デザイン専門学校 ブライダル・ビューティー科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
森川 真琴	静岡デザイン専門学校 ブライダル・ビューティー科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月3日(水) 10:00～12:00

第2回 令和5年3月27日(月) 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ファッションデザイナーがどのような職種か、ファッションデザイナーとして学んでおくべきことを、を体験的な授業を通して指導してもらえる企業を選定している。また、各自が将来展望を開ききっかけとなるような指導をお願いしている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき担当教員が事前指導を行い、企業講師に引き継ぐ。終了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アパレルCAD I	CADシステムの理解とアパレル業界での必要性を認識する。CADの操作の基礎を学ぶ。	AULA SEWING SCHOOL
アパレルCAD II	アパレル業界に就職するために必要となるCADの操作スキルを身につける。これまで手で行っていたパターン作成をCADに置き換える基本的な手順を覚え、効率化の手法を学ぶ。	AULA SEWING SCHOOL

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「トップアナリストがみる小売り、2023年の展望」(INFAS/パブリケーションズ)

期間: 令和5年5月28日 対象: ファッション業界関係者

内容: 2023年を起点に中長期で見る小売業の論点

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間: 令和5年1月5日(水) 対象: 学校所属全教員

内容: 同一分野の就職指導意識合わせ・事例紹介・最新トレンドなどのディスカッション

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ファッション・トレンド速報セミナー」(連携企業等: 株式会社プロジェクト)

期間: 未定 対象: ファッション業界従事者、クリエイター、デザイナー

内容: ファッション業界の今と将来のトレンド情報を収集し、今後のファッション業界に必要なスキルを得る

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間: 未定 対象: 学校所属全教員

内容: 学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	卒業生
浦田 友美	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	近隣住民代表
杉原 徹	T Design 代表	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
品川 誠二郎	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人材開発部 マネージャー	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
<b>事務局</b>			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>  
公表時期: 令和5年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL : <http://www.sdc.ac.jp>

授業科目等の概要

(服飾・家政 専門課程ファッションデザイン科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	本校の学生としての自覚を持たせるために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	30	1		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	2年生として就職活動の心構えを持たせるために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	30	1		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	社会に出るための準備として、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げるとともに社会人基礎力をつける。	3・通	30	1		○		○	△	○		
○			服飾造形ⅠA	服造りにおいて、縫製時に使用する基本的な道具の使い方・基礎的な手縫いのテクニック・各始末の仕方などを学習し身につける。	1・前	30	1			○	○			○	
○			服飾造形ⅠB	服造りにおいて、縫製時に使用する基本的な道具の使い方・基礎的な手縫いのテクニック・各始末の仕方などを学習し身につけ、手縫いで基型を補正して自身に合った原型を作る。	1・前	30	1			○	○			○	
○			服飾造形ⅠC	シャツについての基礎知識を踏まえて、その基本構造・基本製図・合理的な縫製法を身に付ける。	1・前	90	3			○	○			○	
○			服飾造形ⅠD	基本的なタイトスカートを製図し補正して、体に合わせた原型を作る。またそれを使用してデザイン展開されたスカートを制作。	1・後	90	3			○	○			○	
○			服飾造形ⅠE	ワンピース製作を通して、縫製工程の手順、素材に対する知識、副資材の扱い等の基礎を学習する。	1・後	90	3			○	○			○	
○			服飾造形ⅠF	パンツの基本的な構造を学び、作図・仮縫いを経て体に合わせたパンツを縫製する。	1・後	90	3			○	○			○	○
○			服飾造形Ⅱ	1年次に学んだ知識と技術を応用発展させ、縫製工程を理解した上で工業用パターン、工業用技術を身につける。題材としてジャケットを製作する。	2・前	120	4			○	○			○	
○			パターンメイキングⅠ	人体の構造に基づくパターンメイキングの基礎並びに立体の展開方法を学習する。さらに工業用パターン、グレーディングを身につける。	1	120	4			○	○			○	
○			パターンメイキングⅡ	パターンメイキングⅠを発展させ、ジャケットなどのパターンを学習し、パターンメイキング技術検定試験3級取得を目指す。	2	90	3			○	○			○	



○		マーケティング	マーケティング概念とともに、ファッション分野に特化したノウハウを理解する。3年次に控えるSPA実習を踏まえた市場調査・資料製作を実践学習する	2・後	30	1		○	○	○								
○		モード史	移り変わるファッションではあるが、過去のトレンドが今の流行のベースになる事例も少なくない。知識を説得力あるセールストークに活かすことが出来るよう事例を交えて学ぶ。	1・後	30	1	○		○									○
○		デザイン発想	多様な発想法の存在を認識し、活用できるようにする。	2	30	1		○	○									○
○		デザインアプリケーション I	adobe社のillustratorの基本的な使い方を、ハンガーイラストやデザイン画を描くことによって理解する。	1	30	1		○	○									○
○		デザインアプリケーション II	adobe社のPhotoshopを使用し、自分の作品写真等を加工する技術を学習する。adobe社のIllustratorと連携し、自分の製作したアイテムをポートフォリオ（作品集）としてまとめる。	2	30	1		○	○									○
○		接遇マナー I	社会人としての常識やコミュニケーション、マナーの重要性を知り 就活に向けた心の準備を行う。インターンシップや現場訪問を通して、企業研究を行い就活準備をする。	2	30	1		○	○									○
○		接遇マナー II	販売現場の基礎知識を学び、「売る」ための接客技術を身につける。	3	30	1		○	○									○
○		ポートフォリオ制作	学生個々のポートフォリオ制作に必要な考え方を学び、自らのポートフォリオを制作する。	2	30	1		○	○									○
○		生産企画実習	アパレル企業の『MD・デザイナー・パタンナー・生産』の職務を部分的に実践する。商品企画～サンプル製作～社内提案の基本的な内容や流れの理解を深める。	2	90	3			○	○								○
○		クリエイション	マーケティング・企画・生産・販売と、アパレルメーカーに置ける実務の流れを一元的にシミュレーション学習することで、プロジェクト推進力やチームワーク力、判断力を養う。	2	120	4			○	○								○
○		SPA企画	ブランドディレクションの土台になる、ファッションリサーチマーチャンダイジング企画を組み立てる。以降、店頭販売に向けた運営方法を段階的に実践学習する。	2	60	2		○	○									○
○		SPA実習	アパレル業界におけるSPA業態の流れを実習により総合的に学ぶ。消費者を意識した実践的グループワークを行うことで、各部門の業務内容を理解する。	3	60	2			○	○								○
○		SPA製作	SPA実習における企画に沿い、販売するための商品製作を行う。付加価値を高める縫製技術を身につける。	3	210	7			○	○								○
○		キャリアプラン I	自己理解と個々の就職に対する意識を高める。コミュニケーション能力強化を重視し、自己アピールを実践で練習する。社会人としてのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	1	30	1		○	○									○
○		キャリアプラン II	自己理解と個々の就職に対する意識を高める。コミュニケーション能力強化を重視し、自己アピールを実践で練習する。社会人としてのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	2	30	1		○	○									○



○	チャレンジプログラムⅣ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3・通	30	1	○	○	○				
○	チャレンジプログラムⅤ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3・通	30	1	○	○	○				
合計				50	科目	3030単位時間( 101 単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 必須科目及び選択必須科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。2. 年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること。3. 学納金に未納がないこと		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(服飾・家政 専門課程ファッションデザイン科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授 業 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をおとして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2			○	○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をおとして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2			○	○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をおとして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2			○	○	△	○		
○			服飾造形ⅠA	服造りに関して、縫製時に使用する基本的な道具の使い方・基礎的な手縫いのテクニック・各始末の仕方などを学習し身につける。	1・前	30	1			○	○			○	
○			服飾造形ⅠB	服造りに関して、縫製時に使用する基本的な道具の使い方・基礎的な手縫いのテクニック・各始末の仕方などを学習し身につけ、手縫いで型を補正して自身に合った原型を作る。	1・前	30	1			○	○			○	
○			服飾造形ⅠC	基本的なタイトスカートを製図し補正して、体に合わせた原型を作る。またそれを使用してデザイン展開されたスカートを制作。	1・前	60	2			○	○			○	
○			服飾造形ⅠD	シャツについての基礎知識を踏まえて、その基本構造・基本製図・合理的な縫製法を身につける。	1・後	90	3			○	○			○	
○			服飾造形ⅠE	ワンピース製作を通して、縫製工程の手順、素材に対する知識、副資材の扱い等の基礎を学習する。	1・後	90	3			○	○			○	
○			服飾造形ⅡA	パンツの基本的な構造を学び、作図・仮縫いを経て体に合わせたパンツを縫製する。	2・前	60	2			○	○			○	○
○			服飾造形ⅡB	1年次に学んだ知識と技術を応用発展させ、縫製工程を理解した上で工業用パターン、工業用技術を身につける。題材としてジャケットを製作する。	2・前	120	4			○	○			○	
○			ハンドテクニック	手芸テクニックを学ぶ事で、独創的なデザインに活かせる技術の習得を目指す。	2・前	30	1			○	○			○	
○			パターンメイキングⅠ	人体の構造に基づくパターンメイキングの基礎並びに立体の展開方法を学習する。さらに工業用パターン、グレーディングを身につける。	1	120	4			○	○			○	
○			パターンメイキングⅡ	パターンメイキングⅠを発展させ、ジャケットなどのパターンを学習し、パターンメイキング技術検定試験3級取得を目指す。	2	90	3			○	○			○	
○			パターンメイキングⅢ	パターンメイキング技術検定試験2級取得を目標に、アパレル企業のパターンメイキングについて学習する。	3	90	3			○	○			○	
○			ドレーピングⅠ	立体裁断の基礎を学習し、ベーシックスローパーの組立てを身につける。トワルの取り扱いとピンワーク～ドラフティングを学習する。	1	30	1			○	○			○	
○			ドレーピングⅡ	ドレーピングでシャツ、ジャケット、ドレープの組立て方を学習する。パターンメイキング検定3級の実物製図と運動させ、ドレーピングの流れを学ぶ。	2・前	60	2			○	○			○	



○		オリジナルブランド 企画デザイン	ブランドディレクションの土台になる、ファッションリサーチマーチャンダイジング企画を組み立てる。以降、店頭販売に向けた運営方法を段階的に実践学習する。	2	30	1		○	○	○	○	○
○		オリジナルブランド パターン制作	オリジナルブランド実習における企画に沿い、販売するためのサンプルパターン製作を行う。付加価値を高める縫製技術を身につける。	3	90	3		○	○	○	○	
○		オリジナルブランド 生産管理	アパレル企業の『MD・デザイナー・パタンナー・生産』の職務を部分的に実践する。商品企画～サンプル製作～社内提案の基本的な内容や流れの理解を深める。	2	60	2		○	○		○	
○		オリジナルブランド サンプル制作	オリジナルブランド実習における企画に沿い、販売するためのサンプル製作を行う。付加価値を高める縫製技術を身につける。	3・通	60	2		○	○	○	○	
○		オリジナルブランド 商品生産	オリジナルブランド実習における企画に沿い、サンプルから修正を加えて、販売するための商品製作を行う。付加価値を高める縫製技術を身につける。	3	90	3		○	○	○	○	
○		オリジナルブランド 運営	アパレル業界におけるSPA業態の流れを実習により総合的に学ぶ。消費者を意識した実践的グループワークを行うことで、各部門の業務内容を理解する。	3	60	2		○	○	○	○	
○		キャリアプランⅠ	自己理解と個々の就職に対する意識を高める。コミュニケーション能力強化を重視し、自己アピールを実践で練習する。社会人としてのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	1	30	1		○	○		○	
○		キャリアプランⅡ	自己理解と個々の就職に対する意識を高める。コミュニケーション能力強化を重視し、自己アピールを実践で練習する。社会人としてのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	2	30	1		○	○		○	
○		産学連携プロジェクト	デザインの発想、素材、パターン、造形などの知識を作品製作を通して身につける。	1	30	1		○	○		○	
○		卒業制作 デザイン	卒業制作にて制作する作品のアイデアや、背景などを発展させてデザインをする。1/2のマネキンを使用してシルエットやドレーピング、ディテールなどのサンプルを研究しデザインに繋げることを学ぶ。	3・通	60	2		○	○	○	○	
○		卒業制作 造形	縫製技術力を結集させた集大成として、「デザイン・ア・ラ・モード」にてファッションショー形式で作品を発表する。素材の特徴を生かした扱い方や、縫製レベルを評価する。	3	360	12		○	○		○	
○		卒業制作 演出	クリエーションにおけるディレクションの集大成として「デザイン・ア・ラ・モード」にて、ショーステージと展示制作を行う。	3	90	3		○	○	○	○	
○		卒業制作 ポートフォリオ	卒業制作にて制作する作品のアイデアや、背景などをポートフォリオにまとめる。また、展示のやり方を自分たちで考えることによって、人にどう見せるかを学ぶ。	3	30	1		○	○	○	○	
○		研修旅行	訪問先の国や地域での文化や生活に触れ、視野を広めるとともに、異文化理解を深めることを目指す。		60	2		○	○	○	○	
○		色彩検定3級講座	色彩理論の基礎である配色法・伝達法・心理的作用等を確認し、色彩検定3級合格を目指した演習を行なう。		30	1		○	○		○	
○		色彩検定2級講座	3級で学習する配色やイメージについてさらにレベルアップ。ファッションやインテリア、景観色彩など各分野でのカラーコーディネートについて学習し、色彩検定2級合格を目指す。		30	1		○	○		○	
○		色彩検定1級講座	色彩実務担当者として色彩設計に携わることができるレベルの内容を学習する。色彩検定1級合格を目指す。		30	1		○	○		○	
○		色彩検定UC級講座	色覚の多様性に配慮した、誰もが使いやすい色使い、色のユニバーサルデザインについて学習する。色彩検定UC級合格を目指す。		30	1		○	○		○	
○		パーソナルカラー(モジュールⅠ)講座	パーソナルカラーに必要な色の基礎知識と、色を見分けるポイントを習得する。色彩技能パーソナルカラー検定モジュールⅠ(初級)合格を目指す。		30	1		○	○		○	

○	パーソナルカラー(モジュールⅡ)講座	実際にパーソナルカラー診断を行なうために必要な色彩技能について学習する。色彩技能パーソナルカラー検定モジュールⅡ(中級)合格を目指す。	30	1	○	○														
○	ビジネス実務マナー検定講座	ビジネス社会の基本ルール(=職場常識)について学習する。ビジネス実務マナー検定合格を目指す。	30	1	○	○														
○	マンガ検定講座	マンガ表現の描画技術を磨き、豊かな表現力を養う。漫画能力検定の合格を目指す。	30	1	○	○														
○	イラストレーター基礎講座	adobe Illustratorの基本的な使用方法について学習する。POP制作等に展開できる力を養う。	30	1	○	○														
○	フォトショップ基礎講座	adobe Photoshopの基本的な使用方法について学習する。写真加工等に展開できる力を養う。	30	1	○	○														
○	イラストレーター検定講座	adobe Illustratorの基本的な使用方法及び様々な機能について学習する。Illustratorクリエイター能力認定試験合格を目指す。	30	1	○	○														
○	フォトショップ検定講座	adobe Illustratorの基本的な使用方法及び様々な機能について学習する。Illustratorクリエイター能力認定試験合格を目指す。	30	1	○	○														
○	3DCAD基礎講座	機械系または建築系の3次元CADの基本的な使用方法について学習する。3DCADを用いた設計の基本を学習し簡単な設計図の作成能力を身に付ける。	30	1	○	○														
○	2DCAD基礎講座	機械系または建築系の2次元CADの基本的な使用方法について学習する。CADを用いた設計の基本を学習し簡単な設計図の作成能力を身に付ける。	30	1	○	○														
○	SNS活用	マーケティングにおけるSNSの活用方法について、実践的に学ぶ。同時にSNSを活用した顧客エンゲージメント向上について考える。	30	1	○	○														
○	写真	シャッタースピード、絞り、被写界深度など、写真の基礎的項目を学びながら、SNS等で発信する際のビジュアル表現について演習を行なう。	30	1	○	○														
○	映像編集講座	映像撮影から、その編集方法までを学習する。同時に映像による効果的な演出方法について考え、マーケティングに活用するための演習を行なう。	30	1	○	○														
○	ビジネスアプリケーション	ビジネスシーンで一般的に用いられる、ワープロ・表計算ソフトの使用方法を学ぶ。表計算については、検定試験に挑戦する。	30	1	○	○														
○	デッサン演習	デッサン力向上を目的とした講座である。それぞれのモチーフに向き合い、物の形をとらえ、表現する基本的な力を養う。	30	1	○	○														
○	イラストレーション基礎	様々な画材を用いたイラストレーション手法について学ぶ。	30	1	○	○														
○	イラストレーション演習	イラストレーションの技術を活かした作品制作を行なう。	30	1	○	○														
○	ファッションデザイン画	デザイン画を描くための基礎を学習する。絵を描く事の楽しさにふれ、自身のデザインを表現する為の技術を身につける。人体の構造を学び、プロポーションを正しく理解する。	30	1	○	○														
○	素材研究(金属)	身近ではあるが加工には特殊な技術が必要になる金属を実際に加工し、素材としての金属の特性や特徴を理解する。	30	1	○	○														
○	素材研究(革)	ファッションや雑貨に使われる素材の中から革に注目し、素材としての特性や特徴を理解し、作品を制作する。	30	1	○	○														



○	資格取得講座Ⅱ	ファッション・ビューティー分野に関する資格取得に挑戦し、自らのキャリアアップにつなげる。	30	1	○	○	○													
○	SDGs推進プロジェクト	SDGs推進プロジェクト活動に継続的に参加し、人と環境がより良く共存できる社会の実現について考え実践する。	30	1			○	○												
○	ボランティア活動Ⅰ	地域のボランティア活動に継続的に参加することで、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	60	2			○	○	○											
○	ボランティア活動Ⅱ	地域のボランティア活動に継続的に参加することで、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	30	1			○	○	○											
○	インターンシップⅠ	関連企業等にて、1週間の職場体験（インターンシップ）を行なう。デザイン・ファッション業界の現場をリアルに経験する。	60	2			○	○	○											
○	インターンシップⅡ	関連企業等にて、3日間程度の職場体験（インターンシップ）を行なう。デザイン・ファッション業界の現場をリアルに経験する。	30	1			○	○	○											
○	チャレンジプログラムⅠ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○	○	○										
○	チャレンジプログラムⅡ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○	○	○										
○	チャレンジプログラムⅢ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○	○	○										
○	チャレンジプログラムⅣ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○	○	○										
○	チャレンジプログラムⅤ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○	○	○										
合計			103	科目	2970単位時間( 99 単位)															

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 必須科目及び選択必須科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。2. 年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること。3. 学納金に未納がないこと		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話)054-252-1766																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人 静岡理科大学	昭和27年3月31日	杉浦 哲	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話)054-200-3333																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																															
服飾・家政	服飾・家政 専門課程	ブライダル・ビューティー科	平成22年文部省告示 第152号																																
学科の目的	本科は、ブライダル分野とビューティー分野において専門的な知識、技術を身につけると同時にサービス業界に就くための礼儀やマナーを習得する。更にコンクール参加や模擬ブライダルの企画運営を通して実践力を付けると同時にホスピタリティーの心を磨き、当業界で活躍できる人材育成を目的とする。																																		
認定年月日	平成28年2月29日																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	1920時間	360時間	330時間	1230時間	0時間	0時間																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																														
60人	64人	0人	5人	20人	25人																														
学期制度	前期: 4月1日～9月15日 後期: 9月20日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																															
長期休み	■学年始: 4月1日～4月11日 ■夏季: 8月2日～8月27日 ■冬季: 12月23日～1月8日 ■学年末: 2月29日～3月31日	卒業・進級条件		■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。	課外活動		■課外活動の種類 国内研修旅行、海外研修旅行(令和3年度は中止) 校内球技大会、ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動: 無																															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) ブライダルプランナー、エステティシャン、ビューティーアドバイザー、ネイリスト、 メイクアップアーティスト、メイクアドバイザー、セラモニースタッフ等 ■就職指導内容 ・それぞれの適性を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、インターシップのフォロー ■卒業生数 38 人 ■就職希望者数 37 人 ■就職者数 37 人 ■就職率 : 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 97.4 % ・自営業: 1名 ■その他 ・進学者数: 0人 (令和4年度卒業生に関する 令和5年5月1日時点の情報)	主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)																															
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>31人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラー検定初級</td> <td>③</td> <td>31人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>ネイリスト技能検定3級</td> <td>③</td> <td>32人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>シュウウエムラメイクアップ技術検定</td> <td>③</td> <td>37人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>ジュニアライセンス検定</td> <td>③</td> <td>37人</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>サービス接遇検定</td> <td>③</td> <td>35人</td> <td>26人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	AFT色彩検定3級	③	31人	22人	パーソナルカラー検定初級	③	31人	26人	ネイリスト技能検定3級	③	32人	20人	シュウウエムラメイクアップ技術検定	③	37人	31人	ジュニアライセンス検定	③	37人	28人	サービス接遇検定	③	35人	26人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																
AFT色彩検定3級	③	31人	22人																																
パーソナルカラー検定初級	③	31人	26人																																
ネイリスト技能検定3級	③	32人	20人																																
シュウウエムラメイクアップ技術検定	③	37人	31人																																
ジュニアライセンス検定	③	37人	28人																																
サービス接遇検定	③	35人	26人																																
				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																															
				■自由記述欄 ・一般社団法人 JMA シュウウエムラメイクアップコンテスト2022 グランプリ受賞1名、特別賞受賞3名 ・2021バジーナヘア&メイクアップフェスティバル																															
中途退学の現状	■中途退学者 6名 令和4年4月1日時点において、在学者76名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者70名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、体調不良、精神的理由		■中退率 7.9%																																
				■中退防止・中退者支援のための取組 ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。・スクールカウンセラーによる個別相談に応じている。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。																															
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度 特待生: 授業料全額免除 準特待生A: 授業料の50%免除 準特待生B: 授業料の25%免除 準特待生C: 授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																		
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.sdc.ac.jp">http://www.sdc.ac.jp</a>																																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル・ビューティー業界に必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 壽康	ショッピングセンター協会中部支部副支部長 静鉄プロパティマネジメント 取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	①
米本 佳史	株式会社 大丸松坂屋百貨店	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
岩崎 仁志	株式会社ヒューマンフォーラム 代表取締役 社長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
村松 貴	株式会社 京都むらまつ 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
中井 和人	SPINNS店舗開発、FC事業部長SPINNS高等学院 校長	令和4年10月1日～ 令和5年3月31日	③
川南 沙耶香	SPINNS高等学院 教務主任	令和4年10月1日～ 令和5年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
菅 麻紀	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
金田 真哉	静岡デザイン専門学校 ファッションビジネス科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
朝比奈 将人	静岡デザイン専門学校 ブライダル・ビューティー科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
カルフォ 香奈	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
岩本 ひとみ	静岡デザイン専門学校 ブライダル・ビューティー科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
森川 真琴	静岡デザイン専門学校 ブライダル・ビューティー科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月3日(水) 10:00～12:00

第2回 令和5年3月27日(月) 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル・ビューティー業界の重要な分野について、業界が求める能力レベルや重要項目を理解できるよう、企業との協力体制を構築し、教育内容を向上させる。同時に業界で活動している方を講師に招き、現場の声を学校教育の場に注ぎ込むことにより、学校の指導体制を改善させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

サービス分野に属するブライダル業界で重要な科目について、業界人に対する指導を行っている講師の指導を受ける。事前打ち合わせにより、全時間終了後の到達目標の設定、講義と演習の割振り、成績評価方法の決定を行い、これに則って授業を運営していただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
着付けⅠ	きもの名称、たたみ方等の基礎知識から着付け(自装・他装)を実習。鏡を見ないで手早く美しい浴衣姿を目指す。半幅帯の結び方を創作。	株式会社 東洋きもの文化学院
着付けⅡ	着付けに関する一般知識及び実技を身につけ、美しく装うための技と心を磨く	株式会社 東洋きもの文化学院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「JMA認定講師養成セミナー」(連携企業等:一般社団法人JMA)  
期間:令和5年1月14日～16日 対象:ビューティー業界関係者  
内容:JMA認定講師(授業実施・検定試験監)になるためのセミナー

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催  
期間:令和5年1月5日(水) 対象:学校所属全教員  
内容:同一分野の就職指導意識合わせ・事例紹介・最新トレンドなどのディスカッション

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ビューティ・ファッション業界ビジネスセミナー」(連携企業等:WWD)  
期間:未定 対象:ビューティー業界  
内容:ビューティー業界の2023年に向かうべき展望を探る

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催  
期間:未定 対象:学校所属全教員  
内容:学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	卒業生
浦田 友美	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	近隣住民代表
杉原 徹	T Design 代表	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
品川 誠二郎	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人材開発部 マネージャー	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
<b>事務局</b>			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>  
公表時期: 令和5年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL : <http://www.sdc.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程 ブライダル・ビューティー科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をおとして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2			○	○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をおとして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2			○	○	△	○		
○			情報リテラシーⅠ	基本的なオフィスアプリの活用ほか、デザイン系ソフト、Illustrator・Photoshopの基本操作を習得する。	1・後	30	1		○		○			○	
○			情報リテラシーⅡ	Illustrator・Photoshopによる企画書やデザインの制作、作品写真をレタッチする技術を習得する。	2・通	30	1		○		○			○	
○			ブライダル基礎	ブライダルにおける、儀礼的マナーと調和について学び、実地研修を通して知識を習得する。ブライダルファッションプランナー資格取得を目指す。	1・通	90	3	○		△	○	△	○	○	
○			ブライダルコスチューム	ブライダル業界の現場で役立つ、衣装のメンテナンス方法と技術を身につける。	1・通	30	1		○		○		○		
○			ブライダルプロジェクト	時代に添うウェディングスタイルのプランニング・挙行について実践を通じ、ブライダルコーディネートを学ぶ。	2・通	30	1		○		○		○	○	
○			デザイン基礎	ヘアメイクにおけるデザインの変遷から、様々なクリエイションを学ぶことで、テクニックやアレンジの幅を広げる。	1・前	30	1		○		○			○	
○			デザイン発想	テーマに基づきオリジナリティー溢れるデザインを自由に発想する力を身につける。	1・通	30	1		○		○			○	
○			化粧品学	皮膚構造学から栄養学まで、心と身体の美と健康を内面から維持・サポートできる知識を習得する。	1・前	30	1	○			○			○	
○			メイク実習Ⅰ	スキンケアテクニックからノーマルメイク及びモードメイクまで施術できる実践スキルを身につける。シュウエムラメイクアップ検定取得を目指す	1・通	120	4			○	○			○	
○			メイク実習Ⅱ	メイキャップの現場で、お客様または施術者に適切な知識と技術をもって、対応できるスキルを身につける。	2・前	90	3			○	○			○	
○			ネイル実習Ⅰ	ネイルケアにおける知識・基礎、アート技術の実践スキルを学ぶ。JNACネイリスト技能検定試験3級取得を目指す。	1・通	120	4			○	○			○	
○			ネイル実習Ⅱ	サロンワークで多種多様に提供できるネイルアート技術を学ぶ。JNAジェルネイル技能検定試験初級取得を目指す。	2・通	60	2			○	○			○	
○			ヘア実習Ⅰ	ヘアデザインの基礎に必要な美容理論を学び、ヘアアレンジにつながる技術を習得する。	1・前	90	3			○	○			○	
○			ヘア実習Ⅱ	ヘアデザインの応用技術を学び、より創作的なデザインアレンジができるテクニックを習得する。	2・通	90	3			○	○			○	

○		着付けⅠ	和装における日本の心・文化マナーを学び、和の装いの価値や着物の基礎知識ほか着装技術を学ぶ。	1・前	30	1				○	○				○	○
○		着付けⅡ	和装を通して技と心のスキルアップを求め、制服の着付けや着せつけの応用技術を身につける。	2・後	30	1				○	○				○	○
○		マーケティング	商品やサービスの目的を理解し、取り巻く環境や市場の動きから、消費者ニーズに気づく力や共感するセンスを磨く。	1・前	30	1			○	○					○	
○		礼法	日本の文化、しきたりを理解するとともに、相手の気持ちを察するところと慎みのあるふるまいを身につけ、円滑な人間関係を築く。	1・前	30	1	○			○				○		
○		接客マナーⅠ	接客に求められる基礎的な技術とホスピタリティを理解し、体現するためのトレーニングを行う。	1・前	30	1			○	○					○	
○		接客マナーⅡ	接客の基礎知識と心持をベースに、より実践的に柔軟に対応できるスキルを身につける。	2・後	30	1			○	○					○	
○		色彩学	色彩の基礎を理論的に学び、感性にプラスした確かな知識に基づく提案ができる力を身につける。色彩検定3級取得を目指す。	1・通	60	2	○				○				○	
○		パーソナルカラーⅠ	『その人の似合う色』という印象を理論的に分析し、見極める力を身につける。パーソナルカラー検定中級取得を目指す。	1・通	30	1	○				○				○	
○		パーソナルカラーⅡ	お客様に提案できる『その人の似合う色』という印象を接客技術に活かし、展開できる力を身につける。パーソナルカラー検定上級取得を目指す。	2・通	60	2	○				○				○	
○		ブライダルプラン	ブライダル業界の現場で役立つ知識やスキルを学び、プロフェッショナルとしての意識・意欲を高める。	2・前	30	1				○	○	△			○	
○		着付けⅢ	様々なシチュエーションにおける和の装いについて、知識や技術を実践的に役立てることが出来る。きもの講師3級取得を目指す。	2・前	30	1				○	○				○	○
○		メイクトレーニング	ビューティー業界の現場で役立つ知識やスキルを学び、プロフェッショナルとしての意識・意欲を高める。	2・通	30	1					○	○			○	
○		ネイルトレーニング	ネイルスキルが求められる現場で役立つ知識やスキルを学び、多様に活用できるようになる。JNECネイリスト技能検定試験2級取得を目指す。(希望者のみ)	2・通	30	1					○	○			○	
○		キャリアプランⅠ	社会人として必要なビジネスマナーを学び、就職に向けた自己理解や選考に向けた準備をすることで、就職意識を高め今後の活動に備える。	1・前	30	1	○				○				○	
○		キャリアプランⅡ	就職活動を実践しながら自己分析を繰り返し、選考対策を行い内定を獲得する。ほか社会に出る心構えを身につける。	2・後	30	1	○				○				○	
○		産学連携プロジェクトⅠ	地域社会・企業との外部連携を通し、習得した知識や技術の価値を体感し、社会性やコミュニケーション力を高める。	1・前	30	1				○	○	△		○		
○		産学連携プロジェクトⅡ	地域社会・企業との外部連携を通し、実社会の課題に取り組み、実践力を高める。	2・通	30	1					○	○	△		○	
○		卒業制作	様々な分野とセッションすることで、高いクオリティを目指し、よりコンセプトualに魅せる手法を学ぶ。	2・後	240	8					○	○			○	○
○		ブライダル・ビューティー特別実習Ⅰ	ブライダル業界、ビューティー業界のスペシャリストによる講演・デモンストレーション・実習などを体験し、向上心を高め視野を広げる。	1・通	30	1					○	○			○	

○		ブライダル・ビューティー特別実習Ⅱ	ブライダル業界、ビューティー業界のスペシャリストによる講演・デモンストレーション・実習などを体験し、向上心を高め視野を広げる。	2・通	30	1				○	○							○	
	○	研修旅行	訪問先の国や地域での文化や生活に触れ、視野を広めるとともに、異文化理解を深めることを目指す。		60	2				○		○	○						
	○	色彩検定3級講座	色彩理論の基礎である配色法・伝達法・心理的作用等を確認し、色彩検定3級合格を目指した演習を行なう。		30	1				○		○							○
	○	色彩検定2級講座	3級で学習する配色やイメージについてさらにレベルアップ。ファッションやインテリア、景観色彩など各分野でのカラーコーディネートについて学習し、色彩検定2級合格を目指す。		30	1				○		○							○
	○	色彩検定1級講座	色彩実務担当者として色彩設計に携わることができるレベルの内容を学習する。色彩検定1級合格を目指す。		30	1				○		○							○
	○	色彩検定UC級講座	色覚の多様性に配慮した、誰もが使いやすい色使い、色のユニバーサルデザインについて学習する。色彩検定UC級合格を目指す。		30	1				○		○							○
	○	パーソナルカラー(モジュールⅠ)講座	パーソナルカラーに必要な色の基礎知識と、色を見分けるポイントを習得する。色彩技能パーソナルカラー検定モジュールⅠ(初級)合格を目指す。		30	1				○		○							○
	○	パーソナルカラー(モジュールⅡ)講座	実際にパーソナルカラー診断を行なうために必要な色彩技能について学習する。色彩技能パーソナルカラー検定モジュールⅡ(中級)合格を目指す。		30	1				○		○							○
	○	ビジネス実務マナー検定講座	ビジネス社会の基本ルール(=職場常識)について学習する。ビジネス実務マナー検定合格を目指す。		30	1	○					○							○
	○	マンガ検定講座	マンガ表現の描画技術を磨き、豊かな表現力を養う。漫画能力検定の合格を目指す。		30	1				○		○							○
	○	イラストレーター基礎講座	adobe Illustratorの基本的な使用方法について学習する。POP制作等に展開できる力を養う。		30	1				○		○							○
	○	フォトショップ基礎講座	adobe Photoshopの基本的な使用方法について学習する。写真加工等に展開できる力を養う。		30	1				○		○							○
	○	イラストレーター検定講座	adobe Illustratorの基本的な使用方法及び様々な機能について学習する。Illustratorクリエイター能力認定試験合格を目指す。		30	1				○		○							○
	○	フォトショップ検定講座	adobe Illustratorの基本的な使用方法及び様々な機能について学習する。Illustratorクリエイター能力認定試験合格を目指す。		30	1				○		○							○
	○	3DCAD基礎講座	機械系または建築系の3次元CADの基本的な使用方法について学習する。3DCADを用いた設計の基本を学習し簡単な設計図の作成能力を身に付ける。		30	1				○		○							○
	○	2DCAD基礎講座	機械系または建築系の2次元CADの基本的な使用方法について学習する。CADを用いた設計の基本を学習し簡単な設計図の作成能力を身に付ける。		30	1				○		○							○
	○	SNS活用	マーケティングにおけるSNSの活用方法について、実践的に学ぶ。同時にSNSを活用した顧客エンゲージメント向上について考える。		30	1				○		○							○
	○	写真	シャッタースピード、絞り、被写界深度など、写真の基礎的項目を学びながら、SNS等で発信する際のビジュアル表現について演習を行なう。		30	1				○		○							○



○	○	フラワーアレンジメント講座	フラワー業界の概要について学ぶとともに、様々なデザインやスタイルのバリエーションのアレンジメントを制作できるよう、生花を主に演習する。	30	1	○	○	○											
○	○	モデルウォーキング	ファッションショーを視野に入れ、モデルウォーキングを学ぶ。美しい立ち振る舞いについて研究し、SNS用の動画発信等の場面でも活かす。	30	1	○	○	○											
○	○	セルフプロモーション講座	グループ演習を通して、自分自身をプレゼンテーションする能力の向上を目指す。	30	1	○	○	○											
○	○	作品制作	自らの目的に合ったデザイン作品の制作を行なう講座である。ポートフォリオ作品の充実を目指す。	30	1			○	○										
○	○	就職講座	就職活動に向け、自己分析を行ない、キャリア設計を行なう。同時に希望就職先に向けた対策を実施する。	30	1	○	○	○											
○	○	デザインプロジェクト活動	デザインのチカラを活かしたプロジェクト活動を行なう。	30	1			○	○										
○	○	地域連携プロジェクト活動	地域団体主催のプロジェクト活動に、継続的に参加する。	30	1			○	○										
○	○	資格取得講座Ⅰ	デザインに関する資格取得に挑戦し、自らのキャリアアップにつなげる。	30	1	○	○	○											
○	○	資格取得講座Ⅱ	ファッション・ビューティー分野に関する資格取得に挑戦し、自らのキャリアアップにつなげる。	30	1	○	○	○											
○	○	SDGs推進プロジェクト	SDGs推進プロジェクト活動に継続的に参加し、人と環境がより良く共存できる社会の実現について考え実践する。	30	1			○	○										
○	○	ボランティア活動Ⅰ	地域のボランティア活動に継続的に参加することで、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	60	2			○	○	○									
○	○	ボランティア活動Ⅱ	地域のボランティア活動に継続的に参加することで、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	30	1			○	○	○									
○	○	インターンシップⅠ	関連企業等にて、1週間の職場体験（インターンシップ）を行なう。デザイン・ファッション業界の現場をリアルに経験する。	60	2			○	○	○									
○	○	インターンシップⅡ	関連企業等にて、3日間程度の職場体験（インターンシップ）を行なう。デザイン・ファッション業界の現場をリアルに経験する。	30	1			○	○	○									
○	○	チャレンジプログラムⅠ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○	○	○								
○	○	チャレンジプログラムⅡ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○	○	○								
○	○	チャレンジプログラムⅢ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○	○	○								
○	○	チャレンジプログラムⅣ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○	○	○								

○	チャレンジプログラムⅤ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○		○	○	
合計		91科目	1920単位時間(64単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目の成績評価において不可(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人 静岡理科大学	昭和27年3月31日	杉浦 哲	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士															
文化・教養	文化・教養 専門課程	グラフィックデザイン科	平成9年文部省告示第184号																
学科の目的	本科は、広告・デザイン業界における総合的な学習を行い、実務能力と技術・提案力を兼ね備えた、人材の育成を目的とする。また、時代に即応したビジネスセンスも学び、業界のスペシャリストとして幅広く活躍できる適応力も身につける。																		
認定年月日	平成28年2月29日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
3年	昼間	2940時間	540時間	2100時間	300時間	0時間	0時間												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
180人	253人	1人	6人	49人	55人														
学期制度	■前期: 4月1日～9月15日 ■後期: 9月20日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。															
長期休み	■学年始: 4月1日～4月11日 ■夏季: 8月2日～8月27日 ■冬季: 12月23日～1月8日 ■学年末: 2月29日～3月31日		卒業・進級条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。		課外活動	■課外活動の種類 校内球技大会、国内研修旅行、海外研修旅行(令和4年度は中止) ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動: 無															
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) 広告関連企業、Web制作会社、印刷会社、デザイン事務所、デザイン制作会社等 ■就職指導内容 ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、ポートフォリオ制作指導。 ■卒業業者数: 63人 ■就職希望者数: 62人 ■就職者数: 61人 ■就職率: 98.4% ■卒業業者に占める就職者の割合: 96.8% ■その他 ・進学者数: 0人 ・自営業: 0名 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業年次生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>77人</td> <td>68人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定3級</td> <td>③</td> <td>77人</td> <td>49人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ・静岡新聞広告賞2022/フジ物産賞、湖成会賞、環境のミカタ賞 ・第18回ACジャパン広告学生賞 新聞広告部門、優秀賞、テレビCM広告部門 奨励賞 ・第16回静岡県メディアユニバーサルデザインコンペティション 特別賞 ・第16回メディアユニバーサルデザインコンペティション 優秀賞 藤枝セレクション 採用 ・第11回静岡県ものづくり競技大会 グラフィックデザイン部門 1位、2位 ・第11回静岡県ものづくり競技大会 ポスターコンテスト 最優秀賞 優秀賞				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	AFT色彩検定3級	③	77人	68人	ビジネス実務マナー検定3級	③	77人	49人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
AFT色彩検定3級	③	77人	68人																
ビジネス実務マナー検定3級	③	77人	49人																
中途退学の現状	■中途退学者 35名 令和4年4月1日時点において、在学者248名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者213名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、体調不良、精神的な体調不良、学業不振、経済的な理由		■中退率 13.5%																
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度 特待生: 授業料全額免除 準特待生A: 授業料の50%免除 準特待生B: 授業料の25%免除 準特待生C: 授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																		
当該学科のホームページURL	http://www.sdc.ac.jp																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

グラフィックデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
波多野 浩太郎	静岡県広告業協会 理事長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	①
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
坂本 晴敏	株式会社 エステイティブエンタープライズ コンテンツセンター クリエイティブ制作部長兼デザイン室長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
榊原 幸弘	有限会社サイズ 代表取締役社長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
鈴木 猪三男	ウインホーム株式会社 取締役 総務部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
塩谷 弘子	プランニングルーム 代表	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
竹村 英樹	株式会社ポーンデジタル	令和4年12月1日～ 令和5年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 グラフィックデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
井上 靖久	静岡デザイン専門学校 プロダクトデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
岩崎 京子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
羽賀 潤平	静岡デザイン専門学校 プロダクトデザイン科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
宮沢 千夏子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月3日(水) 13:30～15:30

第2回 令和5年3月27日(月) 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

広告・デザイン業界に就職する学生に対し、関連する業界内での仕事への取り組み方(基本行動)や発想力を演習・実習を通して経験し体得することができるよう企業等との協力体制を構築し、教育内容を向上させる。同時に業界で活動している方を講師に招き、現場の声を学校教育の場に注ぎ込むことにより、学校の指導体制を改善させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

グラフィックデザイン科が目指す進路である広告・デザイン業界での重要な科目について、業界の経験豊富な講師の指導を受ける。実施にあたり事前打ち合わせにより、全時間終了後の到達目標の設定、講義と演習の割振り、成績評価方法の決定を行い、これに則って授業を運営していただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
広告メディア論	時代背景の中で放送や印刷媒体等の広告メディアと表現がどのように駆使されてきたかを事例研究し、時代に合った表現を見出すための「論理の組立て方」を演習を通して習得する。	有限会社 岡本戦略広告事務所

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブランディングは見える化マップで前に進む」(主催:モリサワ)

期間:令和4年8月26日(金) 対象:クリエイター、デザイナー

内容:ロジックだけでは前に進まないのがブランディング

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間:令和5年1月5日(水) 対象:学校所属全教員

内容:同一分野の就職指導意識合わせ・事例紹介・最新トレンドなどのディスカッション

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「クリエイティブ研究会」(連携企業等:静岡県広告業協会)

期間:10月 対象:広告業界従事者、クリエイター、デザイナー

内容:最新の広告事例の紹介、SNSやウェブ動画といった消費者の活動を巻き込んだの広告展開するためのヒントを得る。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間:未定 対象:学校所属全教員

内容:学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	卒業生
浦田 友美	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	近隣住民代表
杉原 徹	T Design 代表	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
品川 誠二郎	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人材開発部 マネージャー	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
<b>事務局</b>			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>  
公表時期: 令和5年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL : <http://www.sdc.ac.jp>

## 授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程 グラフィックデザイン学科) 令和5年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2	○			○	△	○			
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2	○			○	△	○			
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2	○			○	△	○			
○			美術史	各時代ごとの価値観や流行によってどのような美術様式や作品が生まれたのかを学ぶ。また、授業内容を絵と文字を使って図解することで、まとめる力を養い、情報伝達の基礎を学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○		
○			デザイン史	デザインの発祥や歴史を学び、デザインという行為を再認識する。また、現代に影響を与えているデザイナーについて学び、デザインワークの参考にする。	1・後	30	1	○			○			○		
○			色彩学	色彩理論の基礎を学び配色法・伝達法・心理的作用等を学習する。色彩検定3級合格を目指す。	1・前	60	2	○			○			○		
○			広告概論	広告とは何か。広告制作の流れは？クリエイターの役割とは。これらの概念・枠組・実務の基本を学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○		
○			DTP・印刷Ⅰ	印刷の各工程におけるポイントを正しくおさえ、印刷製版における基本的な知識やルールについて習得する。	1・後	30	1	○			○			○		
○			DTP・印刷Ⅱ	印刷の各工程におけるポイントを正しくおさえ、印刷製版における基本的な知識やルールについて習得する。	2・後	30	1	○			○			○		
○			企画論	日常生活から社会全般まで問題意識を持って課題発見する視点を養い、そこを出発点に具体的なビジネスプランを組み立てるプロセスを学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○		
○			マーケティング	ビジネスプラン作りの基本となるマーケティングの基礎知識と考え方を学ぶ。社会との接点を意識し、環境・市場・企業の動向や消費者の意識・ニーズに対する感度を磨く。	2・前	30	1	○			○			○		













○		産学連携プロジェクトⅠ	連携先企業よりテーマ提供を受け、デザインを使って問題解決にあたる。	1・後	30	1		○	○	○	○		
○		産学連携プロジェクトⅡ	地域貢献を題材として、仕掛けや仕組み、考え方や行動までデザインすることを通して地域の未来を支える力を育てる。	2・後	60	2		○	○	○	○		
○		産学連携プロジェクトⅢ	地域貢献を題材として、仕掛けや仕組み、考え方や行動までデザインすることを通して地域の未来を支える力を育てる。	3・前	60	2		○	○		○		
○		卒業制作テーマ研究	卒業制作のテーマとなるふさわしい内容を考え、分析し、卒業制作につなげる。	3・前	30	1		○	○	○	○		
○		卒業制作	3年間で身につけた技術の集大成としての卒業制作。各自、テーマ研究から導きだした各自のテーマから企画デザインを行う。	3・後	150	5		○	○	○	○		
○		卒業制作展示計画	卒業制作作品を効果的に演出、展示する。	3・後	60	2		○	○	○	○		
○		研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、見聞を広めるとともに、一方で日本の優れたところを理解し、今後の生活に生かす。	2・後	60	2		○	○				
○		ボランティア活動Ⅰ	ボランティア活動に参加し、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	2・通	60	2		○	○	○			
○		ボランティア活動Ⅱ	ボランティア活動に参加し、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	3・通	60	2		○	○	○			
○		インターシップⅠ	企業等にて、職場体験（インターシップ）を行う。	2・通	60	2		○	○	○			
○		インターシップⅡ	企業等にて、職場体験（インターシップ）を行う。	3・通	60	2		○	○	○			
	○	チャレンジプログラムⅠ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	1・通	30	1		○	○	○	○		
	○	チャレンジプログラムⅡ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1		○	○	○	○		
	○	チャレンジプログラムⅢ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1		○	○	○	○		

○	チャレンジ プログラム Ⅳ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテ ストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に 繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3 ・ 通	30	1	○	○	○	○
○	チャレンジ プログラム Ⅴ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテ ストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に 繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3 ・ 通	30	1	○	○	○	○
合計				111科目		3030単位時間(101単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がなく、年間出席時限数が 年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち以上の方法の併用により行う場合  
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程 グラフィックデザイン学科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2			○	○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2			○	○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	90	3			○	○	△	○		
○			情報リテラシー	データの整理方法、セキュリティに関する知識など、パソコンを使用していく上で必要な取り扱いや利用の基本的知識を理解する。	1・前	30	1	○	△					○	
○			美術・デザイン史	時代ごとの美術様式や作品を学び、内容を図解することで、まとめる力を養い情報伝達の基礎を学ぶ。また、デザインの発祥や歴史、現代に影響を与えているデザイナーについて学び、デザインワークの参考にする。	1・前	30	1	○			○			○	
○			色彩学	色彩理論の基礎を学び配色法・伝達法・心理的作用等を学習する。色彩検定3級合格を目指す。	1・前	60	2	○			○			○	
○			DTP・WEB概論	印刷の各工程におけるポイントを正しくおさえ、印刷製版における基本的な知識やルールについて習得する。また、Webデザインに必要なURL・HTTP・HTMLなどの仕組みについて学ぶ。	1・後	30	1	○			○			○	
○			マーケティング	マーケティングの基礎知識と考え方を学ぶ。社会との接点を意識し、環境・市場・企業の動向や消費者の意識・ニーズに対する感度を磨く。	2・前	30	1	○			○			○	
○			マーケティング実践	企業の実例をもとにマーケティング戦略を学び、成功例や手法を知ることでビジネスやデザイン表現の視野を広げる。グループワークやディスカッションを通して経験値を高める。	3・前	30	1	○	△		○			○	
○			ソーシャルデザイン	地域社会が抱える問題を考え、その問題に対し“デザインの力による社会問題の解決”をテーマに、解決策を考え企画・デザイン化し、プレゼンテーションを行う。	2・前	30	1	○	△		○			○	
○			広告メディア論	時代背景の中で放送や印刷媒体等の広告メディアと表現がどのように駆使されてきたかを事例研究し、時代に合った表現を見出すための「論理の組立て方」を演習を通して習得する。	2・前	30	1	○			○			○	○
○			知的所有権	著作権、意匠権、商標権、不正競争防止法等の事例や法令を通して、知的所有権に関する基本的な概念について学びます。	2・通	30	1	○			○			○	
○			デッサン・クロッキー	立方体、円柱などの幾何形態を描写することによって遠近法などをしっかり身につける。ガラス、金属、布など質感の違いを表現する技法を修得する。	1・通	90	3	○			○			○	
○			平面構成	平面デザインにおける、線・形・色彩の構成をとおして、配置の基本と視覚効果について学び、アクリル絵具による着色を行なう。	1・前	30	1	○			○			○	
○			立体構成	身近な素材である「紙」を中心に、簡単なペーパークラフトの課題を進めていく中で、立体感覚・空間把握の感覚を養っていく。作業の正確さや計画性の重要性なども身につけていく。	1・後	30	1	○			○			○	















○	地域連携プロジェクト活動	地域団体主催のプロジェクト活動に、継続的に参加する。	30	1			○	○	○				
○	資格取得講座Ⅰ	デザインに関する資格取得に挑戦し、自らのキャリアアップにつなげる。	30	1			○	○					
○	資格取得講座Ⅱ	ファッション・ビューティー分野に関する資格取得に挑戦し、自らのキャリアアップにつなげる。	30	1			○	○					
○	SDGs推進プロジェクト	SDGs推進プロジェクト活動に継続的に参加し、人と環境がより良く共存できる社会の実現について考え実践する。	30	1			○	○					
○	ボランティア活動Ⅰ	地域のボランティア活動に継続的に参加することで、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	60	2			○	○	○				
○	ボランティア活動Ⅱ	地域のボランティア活動に継続的に参加することで、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	30	1			○	○	○				
○	インターンシップⅠ	関連企業等にて、1週間の職場体験（インターンシップ）を行なう。デザイン・ファッション業界の現場をリアルに経験する。	60	2			○	○	○				
○	インターンシップⅡ	関連企業等にて、3日間程度の職場体験（インターンシップ）を行なう。デザイン・ファッション業界の現場をリアルに経験する。	30	1			○	○	○				
○	チャレンジプログラムⅠ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○		○	○		
○	チャレンジプログラムⅡ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○		○	○		
○	チャレンジプログラムⅢ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○		○	○		
○	チャレンジプログラムⅣ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○		○	○		
○	チャレンジプログラムⅤ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○		○	○		
合計			154科目		2940単位時間(98単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がなく、年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	18週	

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 静岡理工科大学	昭和27年3月31日	杉浦 哲	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化・教養 専門課程	プロダクトデザイン科	平成12年文部省告示第15号																								
学科の目的	本科は、家具や照明器具、雑貨、ステーショナリー、ホビー、アクセサリなど、日常生活の中で使われる様々な製品の企画・デザインから制作するまでのプロセスを学び、モノ作りを総合的に行うことができる人材の育成を目的とする。																										
認定年月日	平成28年2月29日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	昼間	2940時間	330時間	1800時間	810時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
60人	48人	0人	6人	31人	37人																						
学期制度	■前期: 4月1日～9月15日 ■後期: 9月20日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																							
長期休み	■学年始: 4月1日～4月11日 ■夏季: 8月2日～8月27日 ■冬季: 12月23日～1月8日 ■学年末: 2月29日～3月31日		卒業・進級条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。		課外活動	■課外活動の種類 校内球技大会、国内研修旅行、海外研修旅行(令和3年度は中止) ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) プロダクトデザイナー、家具デザイナー、雑貨デザイナー、家具企画販売、CADオペレーター、マシンオペレーター、家具職人、伝統工芸職人等 ■就職指導内容 ・それぞれの適性を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、ポートフォリオ制作指導 ■卒業生数: 21人 ■就職希望者数: 21人 ■就職者数: 20人 ■就職率: 95.2% ■卒業者に占める就職者の割合: 95.2% ■その他: % ・進学者数: 0人 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3 ■自由記述欄	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業年次生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>レタリング検定3級</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>PD検定2級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	AFT色彩検定3級	③	19人	14人	レタリング検定3級	③	18人	14人	ビジネス実務マナー検定3級	③	15人	12人	PD検定2級	③	21人	15人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
AFT色彩検定3級	③	19人	14人																								
レタリング検定3級	③	18人	14人																								
ビジネス実務マナー検定3級	③	15人	12人																								
PD検定2級	③	21人	15人																								
中途退学の現状	■中途退学者 3名 令和4年4月1日時点において、在学者58名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者55名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・スクールカウンセラーによる個別相談に応じている。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。		■中退率 5.2%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度 特待生: 授業料全額免除 準特待生A: 授業料の50%免除 準特待生B: 授業料の25%免除 準特待生C: 授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

プロダクトデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
波多野 浩太郎	静岡県広告業協会 理事長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	①
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
坂本 晴敏	株式会社 エステイティーエンタープライズ コンテンツセンター クリエイティブ制作部長兼デザイン室長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
榊原 幸弘	有限会社サイズ 代表取締役社長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
鈴木 猪三男	ウインホーム株式会社 取締役 総務部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
塩谷 弘子	プランニングルーム 代表	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
竹村 英樹	株式会社ボーンデジタル	令和4年12月1日～ 令和5年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 グラフィックデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
井上 靖久	静岡デザイン専門学校 プロダクトデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
岩崎 京子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
羽賀 潤平	静岡デザイン専門学校 プロダクトデザイン科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
宮沢 千夏子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月3日(水) 13:30～15:30

第2回 令和5年3月27日(月) 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

商品・製品が作られていく過程を学べるように、商品企画、アイデア展開、図面制作、モデル制作、プレゼン資料制作等  
の実際の業務に携わり、職業人としての基本知識を身につけることができる内容としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。授業は企業講師が打合せに基  
づき実施し、授業終了後には企業講師が打合せした評価指標に沿って成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
家具デザイン	クライアントを設定し、より現実的な家具デザインの提案を行なうこと で、より実践的なデザイン能力を養う。	有限会社 環プロダクツ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能  
の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研  
修をリサーチし、計画的に参加している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「研削といし取扱等特別教育」(連携企業等:静岡県立工科短期大学校)  
期間:令和4年12月6日～12月7日 対象:プロダクト系指導者  
内容:自由研削用研削盤、自由研削といし取付け用具等に関する知識 等

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」学校法人静岡理科大学専門学校グループ主催  
期間:令和5年1月5日(水) 対象:学校所属全教員  
内容:同一分野の就職指導意識合わせ・事例紹介・最新トレンドなどのディスカッション

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「JIDAデザインセミナー」(連携企業等:日本インダストリアルデザイナー協会)  
期間:未定 対象:インダストリアルデザイナー、プロダクトデザイナー  
内容:日本インダストリアルデザイナー協会が主催する会員向けのセミナーを受講し、授業運営の参考にする

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」学校法人静岡理科大学専門学校グループ主催  
期間:未定 対象:学校所属全教員  
内容:学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	卒業生
浦田 友美	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	近隣住民代表
杉原 徹	T Design 代表	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
品川 誠二郎	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人材開発部 マネージャー	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
<b>事務局</b>			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>  
公表時期: 令和5年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL : <http://www.sdc.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロダクトデザイン学科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2	○			○	△	○	○	
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2	○			○	△	○	○	
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2	○			○	△	○	○	
○			デッサン	遠近法がどのようなものであるかを理解する。また、3次元で空間に存在する形を正確に描写する力を身につける。	1・前	60	2	○			○			○	
○			アイディアスケッチ	レタリング技能検定に挑戦し、文字の基本とデザイン用具の使用方法を習得する。また様々な画材を使い、手描きスケッチ技術を習得する。	1・前	60	2	○			○			○	
○			デザイン図学Ⅰ	図面の意義、基本的な線の引き方を訓練する。また、実線、破線、寸法線など、それぞれの線種の意味を理解する。	1・前	60	2	○			○			○	
○			デザイン図学Ⅱ	図面の意義、実線、破線、寸法線などの意味を理解した上で、具体的にデザインしたプロダクトをJIS規格に沿って三面図化する。	2・前	30	1	○			○			○	
○			平面構成	立体・空間デザインに共通する発想・表現・配置・配色の基本を、様々な平面課題を通して学ぶ。	1・通	60	2	○			○			○	
○			伝統技法	竹細工・漆・染色・指物・挽物・・・静岡には優れた伝統工芸士が多く存在する。研ぎ澄まされた技術とモノづくりに対する考え方、そして伝統技術と今後のモノづくりが向かうべき道とはなにかを学ぶ	2・後	30	1	○			○			○	
○			塑像	基本的な観察力を養う。自然な形のトレースを通して立体的な表現力を身につける。	1・通	60	2	○			○			○	
○			立体構成	三面図を読み取りながら実際の形状がどのようなになっているかを実際に制作し、多角的な立体構成力を身につける。	1・通	60	2	○			○			○	○









○	チャレンジプログラムⅢ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテンツや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1	○	○	○			
○	チャレンジプログラムⅣ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテンツや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3・通	30	1	○	○	○			
○	チャレンジプログラムⅤ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテンツや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3・通	30	1	○	○	○			
合計			70科目	2940単位時間(			98単位)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目の成績評価において不可(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロダクトデザイン学科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2			○	○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2			○	○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2			○	○	△	○		
○			デッサン	遠近法がどのようなものであるかを理解する。また、3次元で空間に存在する形を正確に描写する力を身につける。	1・前	60	2		○		○			○	
○			アイデアスケッチ	レタリング技能検定に挑戦し、文字の基本とデザイン用具の使用方法を習得する。また様々な画材を使い、手描きスケッチ技術を習得する。	1・前	60	2		○		○			○	
○			デザイン図学	図面の意義、基本的な線の引き方を訓練する。また、実線、破線、寸法線など、それぞれの線種の意味を理解する。	1・前	30	1		○		○			○	
○			平面構成	立体・空間デザインに共通する発想・表現・配置・配色の基本を、様々な平面課題を通して学ぶ。	1・前	60	2		○		○			○	
○			伝統技法	竹細工・漆・染色・指物・挽物・・・静岡には優れた伝統工芸士が多く存在する。研ぎ澄まされた技術とモノづくりに対する考え方、そして伝統技術と今後のモノづくりが向かうべき道とはなにかを学ぶ。匠宿との連携。	2・後	30	1		○		○			○	
○			立体造形	三面図を読み取りながら実際の形状がどのようになっているかを実際に制作し、多角的な立体構成力を身につける。	1・前	90	3		○		○			○	○
○			色彩学	色彩の基礎知識を学習し、理論的な色彩計画の提案・プランを立てる手助けとする。また、インテリア・ライフスタイルデザインにも関連付けて学習する。色彩検定習得を目標とする。	1・前	60	2	○			○			○	
○			デザイン史	デザインの歴史を学び、デザインという領域への理解を深め、デザイン活動にその考え方を活かせるようにする。	1・前	30	1	○			○			○	
○			巨匠デザイン学	個性ある新旧の巨匠たちのデザインをとおして、その時代背景、デザインの成り立ち、製作のプロセスを知る。	2・通	30	1	○			○			○	
○			UXデザインⅠ	UXデザインの基礎やユニバーサルデザインの基礎を習得する。	1・通	60	2	△	○		○			○	○
○			UXデザインⅡ	UXデザインの基礎やユニバーサルデザイン、SDGsの概念の応用を習得する。	2・通	60	2	△	○		○			○	○
○			UXデザインⅢ	UXデザインの基礎やユニバーサルデザイン、SDGsの概念の応用を活用して、学生が実際に作品を制作する。	3・前	90	3	△	○		○			○	○



○		ポートフォリオ制作Ⅰ	自分の情報を伝える手段として、就職面接の際に実践的に活用できる作品集の制作手法を身につける。	2・前	30	1		○	○									
○		ポートフォリオ制作Ⅱ	就職活動に必要なポートフォリオをそれぞれの個性が伝わるように改善する手法を学び完成度を高める。	3・通	30	1		○	○									
○		プレゼンテーション技法	自分の考えを論理的にまとめる手法や、相手に分かりやすく伝えるための方法を総合的に学ぶ。	3・前	30	1		○	○									
○		キャリアプランⅠ	「自分自身を知ること」から始め、働くことに対する意識を高める。	1・後	30	1	○		○									
○		キャリアプランⅡ	特にコミュニケーション能力を強化することを重視し、様々な場面で対応できる能力形成を目的とする。	2・通	30	1	○		○									
○		キャリアプランⅢ	就職活動を念頭におき、面接時の対応、適正な履歴書の書き方などを体得する。	3・通	30	1	○		○									
○		インターンシップⅡ	企業とのコラボレーションにより企画から製品までの一連の商品開発を学ぶ。コラボレーションする企業側の要望をヒヤリングし、それにそった提案やデザインをしていき商品化を目指す。	3・通	30	1			○	○								
○		卒業制作	3年間で学んできたことの集大成として、実社会へ踏み出す前の実績をつくる。研究成果に対しては外部の人や企業からの評価を受ける。	3・通	330	11			○	○								
○		卒業制作/マーケティング	「モノ」と「コト」の新しい価値を提案する「ライフスタイル提案シート」を作成、発表する。卒業研究のテーマに沿って、マーケティング活動を実施する。	3・通	30	1			○	○								
○		卒業制作/展示計画	卒業研究に取り組むにあたり、材料・素材の研究と加工の演習を実施し、各自の研究・制作に備える。プロダクト検定に基づいたデザイン開発の習得とプロダクト検定の取得を目指す。	3・通	30	1			○	○								
○		産学連携プロジェクトⅠ	外部で開催されるイベントの目的に合わせたインスタレーションを製作。発案から製作、設置までをクラス全員で力を合わせて作り上げる大切さと難しさを習得する。	1・通	30	1			○	○								
○		産学連携プロジェクトⅡ	テーマの掘り下げからコンセプト立案・レンダリング・モデリングという一連のデザインプロセスを経て、産業界であるbud brand及び関連企業にプレゼンテーションを行う。	2・通	30	1			○	○								
○		産学連携プロジェクトⅢ	地域で開催されるイベントに参加することにより、販売されるクオリティーまでのスキルアップと材料費のコスト計算による原価計算や販売方法を習得する。	2・後	30	1			○	○								
○		産学連携プロジェクトⅣ	企業と共同開発を目指し、発案から製作した作品を外部企業にプレゼンテーションすることで、よりリアルで客観的な評価を受けることができ、スキルアップを習得する。	3・前	60	2			○	○								
○		研修旅行	訪問先の国や地域での文化や生活に触れ、視野を広めるとともに、異文化理解を深めることを目指す。		60	2			○		○	○						
○		色彩検定3級講座	色彩理論の基礎である配色法・伝達法・心理的作用等を確認し、色彩検定3級合格を目指した演習を行なう。		30	1			○	○								
○		色彩検定2級講座	3級で学習する配色やイメージについてさらにレベルアップ。ファッションやインテリア、景観色彩など各分野でのカラーコーディネートについて学習し、色彩検定2級合格を目指す。		30	1			○	○								
○		色彩検定1級講座	色彩実務担当者として色彩設計に携わることができるレベルの内容を学習する。色彩検定1級合格を目指す。		30	1			○	○								





○	就職講座	就職活動に向け、自己分析を行ない、キャリア設計を行なう。同時に希望就職先に向けた対策を実施する。	30	1	○	○	○													
○	デザインプロジェクト活動	デザインのチカラを活かしたプロジェクト活動を行なう。	30	1			○	○												
○	地域連携プロジェクト活動	地域団体主催のプロジェクト活動に、継続的に参加する。	30	1			○	○												
○	資格取得講座Ⅰ	デザインに関する資格取得に挑戦し、自らのキャリアアップにつなげる。	30	1			○	○												
○	資格取得講座Ⅱ	ファッション・ビューティー分野に関する資格取得に挑戦し、自らのキャリアアップにつなげる。	30	1			○	○												
○	SDGs推進プロジェクト	SDGs推進プロジェクト活動に継続的に参加し、人と環境がより良く共存できる社会の実現について考え実践する。	30	1			○	○												
○	ボランティア活動Ⅰ	地域のボランティア活動に継続的に参加することで、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	60	2			○				○	○								
○	ボランティア活動Ⅱ	地域のボランティア活動に継続的に参加することで、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	30	1			○				○	○								
○	インターンシップⅠ	関連企業等にて、1週間の職場体験（インターンシップ）を行なう。デザイン・ファッション業界の現場をリアルに経験する。	60	2			○				○	○								
○	インターンシップⅡ	関連企業等にて、3日間程度の職場体験（インターンシップ）を行なう。デザイン・ファッション業界の現場をリアルに経験する。	30	1			○				○	○								
○	チャレンジプログラムⅠ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○			○	○								
○	チャレンジプログラムⅡ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○			○	○								
○	チャレンジプログラムⅢ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○			○	○								
○	チャレンジプログラムⅣ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○			○	○								
○	チャレンジプログラムⅤ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○			○	○								
合計			101科目			2940単位時間( 98単位)														

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がなく、年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	18週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人 静岡理科大学	昭和27年3月31日	杉浦 哲	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
文化・教養	文化・教養 専門課程	インテリアデザイン科	平成23年文部省 告示第166号																												
学科の目的	本科は、住まいや店舗のインテリアをデザインしたり、コーディネートしたりすることができる空間デザイナーの育成を目的としており、住宅の他、街並やイベント、劇場にいたる様々な空間を効果的に表現するため、図面や模型、CGなど、多彩な提案方法を実際の制作活動を通して身につけている。																														
認定年月日	平成28年2月29日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
3	昼間	2910時間	960時間	270時間	1680時間	0時間	0時間																								
単位時間																															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
60人	69人	1人	2人	26人	28人																										
学期制度	■前期: 4月1日～9月15日 ■後期: 9月20日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																											
長期休み	■学年始: 4月1日～4月11日 ■夏季: 8月2日～8月27日 ■冬季: 12月23日～1月8日 ■学年末: 2月29日～3月31日		卒業・進級条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。		課外活動	■課外活動の種類 校内球技大会、国内研修旅行、海外研修旅行(令和4年度は中止) ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動: 無																											
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) インテリアデザイナー、ライフコーディネーター、エクステリアデザイナー、住宅・店舗設計施工等 ■就職指導内容 ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、ポートフォリオ制作指導。 ■卒業者数: 20人 ■就職希望者数: 18人 ■就職者数: 18人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 90% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和4年度卒業者に関する 令和5年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業年次生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インテリアコーディネーター資格試験</td> <td>①</td> <td>8人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>AFT色彩検定2級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>建築CAD検定3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定3級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ・ふじのくに未来デザイン2022 優秀賞1名受賞				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	インテリアコーディネーター資格試験	①	8人	1人	AFT色彩検定3級	③	7人	6人	AFT色彩検定2級	③	1人	1人	建築CAD検定3級	③	8人	6人	ビジネス実務マナー検定3級	③	6人	5人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
インテリアコーディネーター資格試験	①	8人	1人																												
AFT色彩検定3級	③	7人	6人																												
AFT色彩検定2級	③	1人	1人																												
建築CAD検定3級	③	8人	6人																												
ビジネス実務マナー検定3級	③	6人	5人																												
中途退学の現状	■中途退学者: 0名 令和4年4月1日時点において、在学者66名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者66名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。・スクールカウンセラーによる個別相談に応じている。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。		■中退率: 0%																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度 特待生: 授業料全額免除 準特待生A: 授業料の50%免除 準特待生B: 授業料の25%免除 準特待生C: 授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.sdc.ac.jp">http://www.sdc.ac.jp</a>																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

インテリアデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
波多野 浩太郎	静岡県広告業協会 理事長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	①
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
坂本 晴敏	株式会社 エステイティブエンタープライズ コンテンツセンター クリエイティブ制作部長兼デザイン室長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
榊原 幸弘	有限会社サイズ 代表取締役社長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
鈴木 猪三男	ウインホーム株式会社 取締役 総務部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
塩谷 弘子	プランニングルーム 代表	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
竹村 英樹	株式会社ボーンデジタル	令和4年12月1日～ 令和5年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 グラフィックデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
井上 靖久	静岡デザイン専門学校 プロダクトデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
岩崎 京子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
羽賀 潤平	静岡デザイン専門学校 プロダクトデザイン科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
宮沢 千夏子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月3日(水) 13:30～15:30

第2回 令和5年3月27日(月) 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な授業実施について協力的で、最新の技術習得に意欲的な企業を選定している。演習課題では様々なデザイン事例を活用し、新しい生活スタイルの提示法とプレゼンの方法を身につけられるよう要請している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき企業講師が本校で授業を行なう。修了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行なう。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
空間デザインB (建築設備)	建築設備の用語、各設備の方式の概要、特徴及び設備計画の法令等を理解する。建築全体の省エネルギー対策で、設備で必要とされることを理解する。	(株)ビー・コンセプト

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「パッシブデザインー窓上手になるための日射との付き合い方」(連携企業等:(株)LIXIL)

期間:令和4年12月12日(月) 対象:デザイナー

内容:「日本における窓の役割や魅力、これからの窓の未来について」

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間:令和5年1月5日(水) 対象:学校所属全教員

内容:同一分野の就職指導意識合わせ・事例紹介・最新トレンドなどのディスカッション

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「インテリアコンシェルジュ資格認定講座(1級)」(連携企業等:一般社団法人日本ライフスタイル協会)

期間:未定 対象:建築・インテリア業界従事者、クリエイター、デザイナー

内容:家具の相談・助言業務に携わるスキルを身につけた人材育成について学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間:未定 対象:学校所属全教員

内容:学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)教育活動
(3)教育活動	(3)教育成果
(4)学修成果	(4)学生支援
(5)学生支援	(5)教育環境
(6)教育環境	(6)学生の募集と受け入れ
(7)学生の受入れ募集	(7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8)財務	(8)社会貢献・地域貢献、国際交流
(9)法令等の遵守	
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	卒業生
浦田 友美	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	近隣住民代表
杉原 徹	T Design 代表	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
品川 誠二郎	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人材開発部 マネージャー	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
<b>事務局</b>			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>  
公表時期: 令和5年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL : <http://www.sdc.ac.jp>

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程インテリアデザイン学科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2		○		○	△	○		
○			立体構成	基本的な観察力を養う。空間認識力、デッサン力を身につける。立体制作技法の基本を身につける。	1・前	30	1		○		○			○	
○			インテリアスケッチ	道具を使わなくても、打ち合わせをしながら空間をスケッチで表現する。他の授業で行う、空間のプランや表現に必要な能力を身につける。	1・前	60	1		○		○			○	
○			色彩学	色彩の基礎知識を学習し、理論的な色彩計画の提案・プランを立てる手助けとする。また、インテリア・ライフスタイルデザインにも関連付けて学習する。色彩検定習得を目標とする。	1・通	60	2	○			○			○	
○			デザイン史	デザインの歴史を学び、デザインという領域への理解を深め、デザイン活動にその考え方を活かせるようにする。	1・前	30	1	○			○			○	
○			表現演習Ⅰ (図学)	図面の意義、基本的な線の引き方を訓練する。また、実線、破線、寸法線など、それぞれの線種の意味を理解する。	1・通	120	4		○		○			○	
○			表現演習Ⅱ (図学)	図面の意義、実線、破線、寸法線などの意味を理解した上で、具体的にデザインした空間をJIS規格に沿って図面化する。	1・通	90	3		○		○			○	
○			造形演習 (構造力学)	アーチ、トラス、ラーメンなどの構造の種類から引張り、圧縮などの構造物にかかる力について学び、強度を保つための知識を学ぶ。	1・通	90	3		○		○			○	
○			素材演習Ⅰ (建築材料)	柱や壁などの構造躯体に使う材料から、内装や外装などの仕上げに使う材料まで、その種類と用途に合った基本的な使用方法を学ぶ。	1・通	120	4		○		○			○	







授業科目等の概要

(文化・教養専門課程インテリアデザイン学科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2			○	○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2			○	○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2			○	○	△	○		
○			色彩学	色彩の基礎知識を学習し、理論的な色彩計画の提案・プランを立てる手助けとする。また、インテリア・ライフスタイルデザインにも関連付けて学習する。色彩検定習得を目標とする。	1・前	60	2	○	△		○			○	
○			デザインアプリケーションⅠ	デザインの現場で必須アプリであるデザイン系ソフト、Illustrator、Photoshopの基本操作を習得する。	1・前	120	4	△		○	○			○	
○			デザインアプリケーションⅡ	Adobeソフトを使用したグラフィックデザイン応用力の習得。プレゼンテーションツール(メインビジュアル・ロゴタイプ・パンフレットなど)の制作や指示ができるデザイナー育成を目指す。	2・通	30	1	△		○	○			○	
○			図学Ⅰ	遠近法を正しく理解し、物の形や、質感を正しく描写できる技法を習得する。また、平面デザインにおける線・形・色彩の構成を通して、視覚的効果について学ぶ。	1・前	120	4			○	○			○	
○			図学Ⅱ	理論的かつ実践的な空間造形力を身につける。グラフィックデザイン応用力の習得。クライアントを想定したコミュニケーションツールの製作を行う。	2・通	90	3			○	○			○	
○			構造力学	素材の特徴を捉えら上で、チカラの流れとカタチの関係を考え、模型で建物本体の構造について理解を深める。建築本体、建材、インテリア材料に掛かる積算方法を学ぶ。	・通	90	3	○	△		○			○	
○			建築材料Ⅰ	建材メーカーショールームの見学を行い、インテリア・建築の材料について理解を深める。建築物本体(木造)の構造について学び木材の特性、生産現場を調査する。	1・通	120	4	○	△		△	○	○	○	
○			建築材料Ⅱ	エクステリアプランナー検定3級に対応した作図、パース、プレゼン手法他、外部空間に伴う材料の基本知識などを身につける。素材の知識、加工法知識を学び、卒業制作の作品製作に繋げる。	3・通	120	4	○	△		○	△	○	○	
○			基礎製図Ⅰ	インテリア空間を表現するためのパース手法、着彩手法を学ぶ。また建築CAD検定3級取得に向けて、jw-CADの基本操作を学ぶ。インテリアコーディネーター一次試験合格に向け、建築・インテリアの基礎知識を学ぶ。	1・通	180	6	△	○		○		○		
○			基礎製図Ⅱ	手描きでのインテリアパーススキルの向上及び3DCADを使った三次元パースが描けるスキルを習得する。産学連携を主体とした実践的な計画を行う。	2・通	120	4		△	○	○		○		
○			基礎製図Ⅲ	2級建築士製図試験対策としての製図の練習方法を習得する。空間感覚、また作図手法を身につけ、手描きでのインテリアパースのさらなる向上を目指す。	3・通	90	3		△	○	○		○		
○			設計製図Ⅰ	インテリア基礎製図の知識と表現力を身につける。	1・通	120	4		△	○	○			○	

○		設計製図Ⅱ	製図の応用と表現を身につける。図面を読み解く力、図面からプランニングができるスキルを身につける。インテリアコーディネーター一次試験合格に向け、建築・インテリアの基礎知識を学ぶ。	2・通	180	6	○	△	○	○	○	○	○
○		環境工学	光や風の環境実験を通し、建物と環境の関係性について理解を深める。立体造形演習を通じ、物や空間の立体的な認識・理解を深める。	1・通	120	4	○	△	○				○
○		一般構造	インテリアに繋がる建築物本体（RC造、鉄骨造）の構造について学ぶ。また建築的観点と販売促進に繋がるVMDの観点から作り出す店舗設計について学ぶ。	2・通	120	4	○	△	○	△			○
○		建築法規	建築行為を行うために守らなければならない法令の内容や具体的な数値を覚える。	2・通	30	1	○	△	○				○
○		建築生産	外部空間に関する材料・施工方法の知識を学ぶ。	2・通	30	1	○	△	○	△			○
○		建築設備	建築設備の用語、各種方式・概要・特徴を理解する。設備計画の法令等の知識を習得する。	2・前	30	1	○	△	○				○ ○
○		ビジネスプラン	マーケティング・企画、収支計算など店舗づくりに必要なビジネスプランの基本要素を学ぶ。	2・通	30	1	○	△	○				○
○		ポートフォリオ制作Ⅰ	就職活動に備え、印象的なポートフォリオ制作の手法について学び製作を行う。	2・後	30	1	△		○	○			○
○		ポートフォリオ制作Ⅱ	就職活動に備え、印象的なポートフォリオ制作のさらなるブラッシュアップを行い、早期内定に繋げる。	3・前	30	1	△		○	○			○
○		建築計画	個人テーマを開拓し、調査・研究・計画・デザイン・製作の一連の作業を通し、個人作品を完成させる。クライアントを納得させるプレゼン手法、プランニング手法を学ぶ。	3・前	570	19			○	○	△	○	○
○		キャリアプラン	社会人としてのビジネスマナーを身につけるため、ビジネス実務マナー検定3級を取得を目指す。社会に出て行く準備や、就職活動に向けた心構えを身につける。	2・通	30	1	○			○			○
○		産学連携プロジェクトⅠ	企業・地域との外部連携では、実際の仕事の流れを体験することで、実践的な学びを得る。	1・前	30	1			○	○	△	○	
○		産学連携プロジェクトⅡ	企業・地域との外部連携では、実際の仕事の流れを体験することで、実践的な学びを得る。企業と連携することで、デザインしたものが実現するまでのプロセスや成果を体験できる。	2・通	30	1			○	○	△	○	
○		産学連携プロジェクトⅢ	企業・地域との外部連携では、実際の仕事の流れを体験することで、実践的な学びを得る。クライアントが求める要件をロジカルにデザインへ落とし込む	3・前	60	2			○	○	△	○	
○		研修旅行	訪問先の国や地域での文化や生活に触れ、視野を広めるとともに、異文化理解を深めることを目指す。		60	2			○		○	○	
○		色彩検定3級講座	色彩理論の基礎である配色法・伝達法・心理的作用等を確認し、色彩検定3級合格を目指した演習を行なう。		30	1			○		○		○
○		色彩検定2級講座	3級で学習する配色やイメージについてさらにレベルアップ。ファッションやインテリア、景観色彩など各分野でのカラーコーディネートについて学習し、色彩検定2級合格を目指す。		30	1			○		○		○
○		色彩検定1級講座	色彩実務担当者として色彩設計に携わることができるレベルの内容を学習する。色彩検定1級合格を目指す。		30	1			○		○		○





○	就職講座	就職活動に向け、自己分析を行ない、キャリア設計を行なう。同時に希望就職先に向けた対策を実施する。	30	1	○	○	○													
○	デザインプロジェクト活動	デザインのチカラを活かしたプロジェクト活動を行なう。	30	1		○	○													
○	地域連携プロジェクト活動	地域団体主催のプロジェクト活動に、継続的に参加する。	30	1		○	○													
○	資格取得講座Ⅰ	デザインに関する資格取得に挑戦し、自らのキャリアアップにつなげる。	30	1		○	○													
○	資格取得講座Ⅱ	ファッション・ビューティー分野に関する資格取得に挑戦し、自らのキャリアアップにつなげる。	30	1		○	○													
○	SDGs推進プロジェクト	SDGs推進プロジェクト活動に継続的に参加し、人と環境がより良く共存できる社会の実現について考え実践する。	30	1			○	○												
○	ボランティア活動Ⅰ	地域のボランティア活動に継続的に参加することで、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	60	2			○	○	○											
○	ボランティア活動Ⅱ	地域のボランティア活動に継続的に参加することで、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	30	1			○	○	○											
○	インターンシップⅠ	関連企業等にて、1週間の職場体験（インターンシップ）を行なう。デザイン・ファッション業界の現場をリアルに経験する。	60	2			○	○	○											
○	インターンシップⅡ	関連企業等にて、3日間程度の職場体験（インターンシップ）を行なう。デザイン・ファッション業界の現場をリアルに経験する。	30	1			○	○	○											
○	チャレンジプログラムⅠ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○		○	○									
○	チャレンジプログラムⅡ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○		○	○									
○	チャレンジプログラムⅢ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○		○	○									
○	チャレンジプログラムⅣ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○		○	○									
○	チャレンジプログラムⅤ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1			○	○		○	○									
合計			84科目			2910単位時間( 97単位)														

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がなく、年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	18週	

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人 静岡理工科大学	昭和27年3月31日	杉浦 哲	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
文化・教養	文化・教養 専門課程	フラワーデザイン科	平成27年文部省告示 第14号																												
学科の目的	本科はフラワーアレンジメント等の装飾知識だけでなく、花の栽培、流通等にわたる幅広い学習をする。また、花による表現の基礎知識であるデッサンや色の知識を習得し、花で思いを表現できる実践力を育成し、花関連企業をはじめとするフラワー業界で活躍できる人材育成を目的とする。																														
認定年月日	平成28年2月29日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	1950時間	450時間	1350時間	120時間	0時間	0時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
60人	44人	0人	3人	25人	28人																										
学期制度	■前期: 4月1日～9月15日 ■後期: 9月20日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																											
長期休み	■学年始: 4月1日～4月11日 ■夏季: 8月2日～8月27日 ■冬季: 12月23日～1月8日 ■学年末: 2月29日～3月31日		卒業・進級条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。		課外活動	■課外活動の種類 国内研修旅行、海外研修旅行(令和4年度は中止) 校内球技大会、ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動: 無																											
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) フローリスト、ブライダルフラワーコーディネーター ■就職指導内容 ・それぞれの適性を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、インターンシップのフォロー ■卒業生数: 13人 ■就職希望者数: 13人 ■就職者数: 13人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和4年度卒業生に関する 令和5年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業年次生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>AFT色彩検定2級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>ブライダルフラワープランナー</td> <td>③</td> <td>37人</td> <td>37人</td> </tr> <tr> <td>サービス接客検定3級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>商業ラッピング検定3級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>10人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ・第60回技能五輪全国大会 フLOWER装飾部門 銅賞、敢闘賞 ・花咲く伊豆の国フェア2023 ガーデン部門 銀賞				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	AFT色彩検定3級	③	13人	10人	AFT色彩検定2級	③	1人	1人	ブライダルフラワープランナー	③	37人	37人	サービス接客検定3級	③	14人	12人	商業ラッピング検定3級	③	14人	10人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
AFT色彩検定3級	③	13人	10人																												
AFT色彩検定2級	③	1人	1人																												
ブライダルフラワープランナー	③	37人	37人																												
サービス接客検定3級	③	14人	12人																												
商業ラッピング検定3級	③	14人	10人																												
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0.0% 令和4年4月1日時点において、在学者38名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者38名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・スクールカウンセラーによる個別相談に応じている。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度 特待生: 授業料全額免除 準特待生A: 授業料の50%免除 準特待生B: 授業料の25%免除 準特待生C: 授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

フラワー業界に必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
竹崎 亨	一般社団法人 花の国日本協議会理事 株式会社イーフローラ 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	①
田代 穂徳	フィオーレ田代 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
青山 孝好	株式会社 するが花き 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
佐野 純子	クリエイティブアートフラワーデザインスクール学院長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
鈴木 裕美	静岡デザイン専門学校 フラワーデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月3日(水) 16:30～18:00

第2回 令和5年3月27日(月) 16:30～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

生花店等の実際の業務に携わり、職業人としての基本行動を理解することができる連携先を選定している。また、学生の就職希望に繋げることが可能な連携先を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習前に研修先より受入表を作成し、生花店での基本的な店員の振舞いを知るための実習となるよう行っている。期間中または期間後に、担当教員が巡回し指導担当者と面会し、学生の学習状況を確認する。実習後に実習評価表等の報告を受け、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ I	生花店や園芸店、生花市場等、お花関連企業に出向き研修先現場において業務研修を5日間行う。	(株)日比谷花壇 (株)KAZ企画 (株)するが花き卸売市場 MILK FLOWERS (株)インベフラワーセンター フラワーラウンジピコロン (株)フローラ45小林岩夫生花店 斎藤生花店 リトルガーデン花・あ〜と (株)フレシード信州 (株)花樹園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名 フラワービジネス講座(連携企業等:日本フローラルマーケティング協会)

期間:令和4年5月17日 対象:フラワー業界従事者

内容:お花屋さんのマーケティング入門

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間:令和5年1月5日(水) 対象:学校所属全教員

内容:同一分野の就職指導意識合わせ・事例紹介・最新トレンドなどのディスカッション

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名 フラワービジネス講座(連携企業等:日本フローラルマーケティング協会)

期間:2023年5月~6月 対象:フラワー業界従事者

内容:フラワー業界のマーケティングについてのセミナーを受講し、今後の指導に役立てる

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間:未定 対象:学校所属全教員

内容:学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表 (卒業生)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	卒業生
浦田 友美	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	近隣住民代表
杉原 徹	T Design 代表	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
品川 誠二郎	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人材開発部 マネージャー	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
<b>事務局</b>			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>  
公表時期: 令和5年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL : <http://www.sdc.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程フラワーデザイン科) 令和5年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等とおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	1・通	60	2			○	○	△	○	
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等とおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	2・通	60	2			○	○	△	○	
○			IT活用Ⅰ	パソコンリテラシー教育として、インターネット、表計算、ワープロ、プレゼンテーションツールを使い自分の考えをまとめ発表することを学習する。	1・前	30	1			○	△	○		○
○			IT活用Ⅱ	インターネット上のサービスを効率よく利用することや、SNSに拠る情報発信について学ぶ。プレゼンテーションスキル向上に役立たせる。	2・後	30	1			○	△	○		○
○			フラワーデザイン画Ⅰ	人に伝える手段としての『描くこと』を体得し、まずは対象を正確に捉える技術を身に付ける。	1・通	30	1			○		○		○
○			フラワーデザイン画Ⅱ	人に伝える手段としての『描くこと』をより習慣化して体得する。実践的な対象を描くことにより仕事の上でも活用できる技術を身に付ける。	2・通	30	1			○		○		○
○			デザイン発想・造形基礎実技Ⅰ	様々な創作活動に共通する基本的なデザイン感覚を身につける。また多くの素材や既存の作品に触れ、表現方法の幅を広げていく。	1・通	30	1			○	△	○		○ ○
○			デザイン発想・造形基礎実技Ⅱ	1年次で学んだ素材知識をもとに、より幅のあるデザインに発展させ、作品の質を向上し、完成度の高い制作をする。	2・通	30	1			○	△	○		○
○			デザイン研究	フラワーアレンジメントをはじめ、様々な造形物をつくる際の発送の手がかりとなり、美的センスの良い作品づくりが出来るようになる。また、芸術作品の鑑賞方法が分かるようになる。	1・後	30	1			○		○		○
○			デザインアプリケーションⅠ	デザインの現場で必須アプリであるデザイン系ソフト、Illustrator、Photoshopの基本操作を習得する。ポートフォリオの制作スキルを身に付ける。	1・後	30	1			○		○		○
○			デザインアプリケーションⅡ	PCを使用したグラフィックデザイン応用力の習得。専門スキルとの連動として、オリジナルフラワーショップのロゴデザインなどを行う。	2・前	30	1			○		○		○
○			色彩学Ⅰ	色彩の知識を基礎に、顧客のニーズに応え、満足いただけるアレンジや花束等をデザインする方法を学んでいく。また、色の持つイメージと効果も学び、配色のコツを覚える。	1・前	60	2	○			○			○ ○
○			フラワーアレンジメントⅠ	花を通して、高齢者施設等での植物のあり方や植物を介して人と接することの役割を演習から学ぶ。	1・通	##	4			○	○	○		○
○			フラワーアレンジメントⅡ	生産者から消費者への広い花の業界の中で様々なデザインやスタイルのバリエーションのアレンジメントを制作できるよう生花を主に、レッスン1から発展していく。	2・通	##	4			○	○	○		○
○			フラワー装飾法Ⅰ	国家試験であるフラワー装飾技能検定3級合格を目指し、花束やアレンジの基本を身につける。また、技能五輪出場者は、2級合格を目指して訓練する。	1・通	30	1			○		○		○

○		フラワー装飾法Ⅱ	国家試験であるフラワー装飾技能検定3級合格を目指し、花束やアレンジの基本を身につける。また、技能五輪出場者は、2級合格を目指して訓練する。	2・後	60	2		○	○									
○		園芸Ⅰ	四季の植物の育て方と用土、肥料など園芸基礎を学ぶ事によりお客様からの園芸相談や商品解説を時代に合った方法、言葉で解説できるようになり、実習作業でより理解も深まるようになる。	1・前	90	3		○	○	△								
○		園芸Ⅱ	実店舗で実習する事で、店頭での対応、仕事内容が具体的に理解でき、就職後即役立つことを学ぶ。	2・通	60	2		○	○	△								
○		エクステリアプランナーⅠ	エクステリアに関する材料・施工方法等の知識を習得する。2年次にエクステリアプランナー2級の資格合格を目指す。	1・通	30	1	○			○								
○		エクステリアプランナーⅡ	外部空間（エクステリア）に関する材料・施工方法等の知識を勉強し、他の授業での課題等に活かすとともに、エクステリア業界等の就職に有利になる。エクステリアプランナー2級の資格合格を目指す。	2・通	30	1	○	△		○								
○		空間表現	「自分の素材」をみつけ、理論的かつ実践的な「空間造形力」を身につける。	1・通	30	1		○			○	○						
○		ガーデンデザイン	ガーデンデザインに限らず、エクステリア全般について紹介し、エクステリアの仕事に必要な知識を得る。	2・前	30	1		○			○							
○		フラワービジネス論	フラワービジネスの基本知識の習得。産地生産、市場流通、病害虫、法令の基礎的な知識を学ぶ。	1・後	90	3	○				○							
○		ブライダル基礎	ブライダルプランナーとして基礎知識を習得し、全日本ブライダル協会が主催する「ジュニアライセンス検定試験」取得を目指す。ブライダル施設の見学や現場のそれぞれの担当者役割について学習し、テーブルマナーについて理解を深める。	1・通	90	3	○				○							
○		サービス接遇	サービス業とはどのようなものかを考え、ビジネスの場でのサービス接遇というもの、顧客との接し方、具体的な考え方・行動の仕方・会話方法などを学ぶ。	2・通	30	1	○				○							
○		接客マナー	人前でも臆することなく自信を持って堂々と話ができるようにし、美しい立ち居振る舞いができ、正しい滑舌、正しい敬語を使い、好印象を与える接客ができる。	1・通	30	1		○			○							
○		セールスプロモーションⅠ	小売店舗における販売促進の基本的手法と重要さの理解でき、より集客につながる表現方法を習得する。	1・通	30	1		○			○							
○		セールスプロモーションⅡ	次世代のフラワーショップで販売する新商品の企画提案できる人材になる。就職した際に、様々な企画が提案でき、時代に合った、即戦力となるスタッフになる。プロモーションとマーケティングの関連の基礎。	2・後	60	2		○			○							
○		ラッピング装飾	商業ラッピングの基礎知識を身に付け慶弔贈答の基本的な包装ができる。 「商業ラッピング3級検定試験」の合格を目指す。	1・後	30	1	○				○							
○		生け花	日本伝統の華道について学習する。流派は国風華道会・小原・池坊・草月・古流松蔭会。	1・後	30	1		○			○							
○		ショップマネージメントⅠ	店舗運営に必要な売上・仕入と在庫、利益等、計数管理に関する基本知識を習得できる	1・前	30	1		○			○							
○		ショップマネージメントⅡ	店舗責任者・売場責任者として計数管理を応用し、品揃え・仕入・販促企画と連動した売上目標の設定から売上分析ができる	2・通	30	1		○			○							
○		実習店舗	オリジナルショップを提案することを通し、会社の設立と経営について学習する。	2・通	60	2					○	○	○					

○		キャリアプランⅠ	社会人に必要な基本的ビジネスマナーを学ぶことで、今後の学生生活における心構えを身につける。さらに、コミュニケーション能力を強化し、今後の就職活動における面接に備える。	1・通	30	1	○		○										
○		キャリアプランⅡ	コミュニケーション能力強化を重視し、自己アピールを実践で練習する。社会人としてのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	2・後	30	1	○		○										
○		インターンシップⅠ	生花店や園芸店、青果市場等、お花関連企業に出向き研修先現場において業務研修を5日間行う。	2・前	60	2			○		○	○	○	○	○				
○		産学連携プロジェクトⅠ	清水港フラワーショー及び、デザインアラモードのフラワーショップの準備とフラワーショップ実習を行う。	1・通	30	1		△	○	○	△	○	○						
○		産学連携プロジェクトⅡ	地域での対外イベントに参加するを通し、コミュニケーション能力の向上、責任感を持って行動することを学ぶ。	2・通	30	1		△	○	△	○	○	○						
○		卒業制作	学生としての集大成。自分自身の勉強した事柄全てを一つの作品にこめて作ることによって2年間の実力を知る。	2・通	90	3		△	○	○									○
○		研修旅行	訪問先の国や地域での文化や生活に触れ、視野を広めるとともに、異文化理解を深めることを目指す。		60	2			○		○	○							
○		色彩検定3級講座	色彩理論の基礎である配色法・伝達法・心理的作用等を確認し、色彩検定3級合格を目指した演習を行なう。		30	1			○		○								○
○		色彩検定2級講座	3級で学習する配色やイメージについてさらにレベルアップ。ファッションやインテリア、景観色彩など各分野でのカラーコーディネートについて学習し、色彩検定2級合格を目指す。		30	1			○		○								○
○		色彩検定1級講座	色彩実務担当者として色彩設計に携わることができるレベルの内容を学習する。色彩検定1級合格を目指す。		30	1			○		○								○
○		色彩検定UC級講座	色覚の多様性に配慮した、誰もが使いやすい色使い、色のユニバーサルデザインについて学習する。色彩検定UC級合格を目指す。		30	1			○		○								○
○		パーソナルカラー(モジュールⅠ)講座	パーソナルカラーに必要な色の基礎知識と、色を見分けるポイントを習得する。色彩技能パーソナルカラー検定モジュールⅠ(初級)合格を目指す。		30	1			○		○								○
○		パーソナルカラー(モジュールⅡ)講座	実際にパーソナルカラー診断を行なうために必要な色彩技能について学習する。色彩技能パーソナルカラー検定モジュールⅡ(中級)合格を目指す。		30	1			○		○								○
○		ビジネス実務マナー検定講座	ビジネス社会の基本ルール(=職場常識)について学習する。ビジネス実務マナー検定合格を目指す。		30	1	○			○									○
○		マンガ検定講座	マンガ表現の描画技術を磨き、豊かな表現力を養う。漫画能力検定の合格を目指す。		30	1			○		○								○
○		イラストレーター基礎講座	adobe Illustratorの基本的な使用方法について学習する。POP制作等に展開できる力を養う。		30	1			○		○								○
○		フォトショップ基礎講座	adobe Photoshopの基本的な使用方法について学習する。写真加工等に展開できる力を養う。		30	1			○		○								○
○		イラストレーター検定講座	adobe Illustratorの基本的な使用方法及び様々な機能について学習する。Illustratorクリエイター能力認定試験合格を目指す。		30	1			○		○								○





○	インターンシップⅠ	関連企業等にて、1週間の職場体験（インターンシップ）を行なう。デザイン・ファッション業界の現場をりあるに経験する。	60	2				○	○	○		
○	インターンシップⅡ	関連企業等にて、3日間程度の職場体験（インターンシップ）を行なう。デザイン・ファッション業界の現場をりあるに経験する。	30	1				○	○	○		
○	チャレンジプログラムⅠ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1				○	○	○	○	
○	チャレンジプログラムⅡ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1				○	○	○	○	
○	チャレンジプログラムⅢ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1				○	○	○	○	
○	チャレンジプログラムⅣ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1				○	○	○	○	
○	チャレンジプログラムⅤ	外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	30	1				○	○	○	○	
合計			94科目			1950単位時間（65単位）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がなく、年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	18週	

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。